2-590-278-**02** (1)

SONY®

取扱説明書

MZ-DH10P

Hi-MD Walkman

Portable MD Player

Hi-MD AUDIO　Hi-MD PHOTO　MiniDisc　NetMD　MDLP

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

お問合せ窓口のご案内

本機についてご不明な点や**技術的なご質問、故障と思われるときのご相談**については、下記のお問い合わせ先をご利用ください。

- **ホームページで調べるには ⇨ パーソナルオーディオ・カスタマーサポートへ（http://www.sony.co.jp/support-pa/）**
  本機に関する最新サポート情報や、よくあるお問合せとその回答をご案内しています。
- **電話・FAXでのお問い合わせは ⇨ お客様ご相談センターへ（下記電話・FAX番号）**
  - 本機の商品カテゴリーは［オーディオ］－［ウォークマン］です。
  - お問い合わせの際は、次のことをお知らせください。

◆セット本体に関するご質問時：
- 型名：MZ-DH10P
- 製造（シリアル）番号：別紙の「カスタマー登録のお願い」をご参照ください
- ご相談内容：できるだけ詳しく
- お買い上げ年月日

◆付属のソフトウェアに関連するご質問時：
- ソフトウェアのバージョン：
- お使いのパソコン（メーカー名/型名）：
- パソコンにインストールされているOS名：
- メモリ容量/ハードディスクの空き容量：
- CD-ROMドライブの型名/種類（外付けまたは内蔵）：
- エラーメッセージ（エラーメッセージが表示された場合）：

商品の修理、お取扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

- http://www.sony.co.jp/SonyDrive/

お客様ご相談センター
- ナビダイヤル ………… 0570-00-3311
（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）
- 携帯電話・PHSでのご利用は…03-5448-3311
（ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください）
- FAX ……………………0466-31-2595

受付時間　：月～金 9:00～20:00　土・日・祝日 9:00～17:00
お電話は自動音声応答にてお受けしています。

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川 6-7-35

この説明書は100%古紙再生紙を使用しています。

Printed in Malaysia

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

8~12ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

定期的に点検する

1年に一度は、ACパワーアダプターのプラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、ACパワーアダプターやUSBクレードルなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店、ソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら、液漏れしたら

➡

1. **電源を切る。**
2. **ACパワーアダプターをコンセントから抜く/パソコンから専用USBケーブルを抜く。**
3. **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する。**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険
この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告
この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意
この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

行為を禁止する記号

行為を指示する記号

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、この商品の価格には、著作権法の定めにより、私的録音補償金が含まれております。（お問い合わせ先　（社）私的録音補償金管理協会　Tel.03-5353-0336）

ためし撮り/録り

撮り/録り直しのきかない撮影/録音の場合は、必ず事前にためし撮り/録りをして、正常に記録されていることを確認してください。

録音内容や撮影内容の補償はできません

万一、カメラ、記録メディア、パソコンなどの不具合により撮影や録音がされなかった場合、画像や音楽データなどの記録内容の補償については、ご容赦ください。

画像の互換性について

- 本機は、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された統一規格 "Design rule for Camera File system" に対応しています。
- 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影/修正した画像の本機での再生は保証いたしません。

著作権について

- あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。
- 著作権に関わる画像の伝送は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、利用できませんのでご注意ください。

商標について

- "ウォークマン"、"WALKMAN" はヘッドホンステレオ商品を表すソニー株式会社の登録商標です。WALKMAN はソニー株式会社の登録商標です。
- SonicStageはソニー株式会社の登録商標です。
- MD Simple Burner、OpenMG、Hi-MD、Net MD、ATRAC、ATRAC3、ATRAC3plusおよびそれぞれのロゴはソニー株式会社の商標です。
- MicrosoftおよびWindows、Windows NT、Windows Mediaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標、または商標です。
- MacintoshおよびMac OS、QuickTimeは、Apple Computer, Inc.の登録商標または商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していません。

付属のマニュアルについて

下記を参照して、必要なマニュアルをお使いください。

本機の操作を知りたいとき、本機の操作で困ったとき

➡「取扱説明書」（本書）

Hi-MD ウォークマンの特長を知りたいとき

➡「Hi-MD ウォークマンでこんなことができます」

付属ソフトウェア（SonicStage/MD Simple Burner）について

パソコンから音楽を転送する方法を知りたいとき、困ったとき

➡「パソコンから音楽を転送しよう！」

さらに詳しく知りたいとき、パソコン上で操作を調べたいとき

➡「SonicStage ヘルプ」

目次

メニューで設定する

パソコンとつないで音楽以外のデータを保存する Hi-MDモード

困ったときは

その他

この取扱説明書では、本体での操作を主として説明しています。
Hi-MDモード の記号は、Hi-MDモードのみで使える機能です。

音楽とカメラを楽しむ

本機では音楽を再生するだけでなく、Hi-MDモードで使うと、カメラ機能で画像を撮りディスクに保存できます。ディスクモード（Hi-MDモード/MDモード）については、☞本書の73ページをご覧ください。

音楽を楽しむ

パソコンから音楽を転送できます

付属のソフトウェア（SonicStage/MD Simple Burner）を、
パソコンにインストールしてください
（☞別冊「パソコンから音楽を転送しよう！」）。

SonicStage
インターネットなどからパソコンに、音楽や
ジャケット画像を取り込み、編集したり管理したり
できます。また、それらを本機に転送できます。

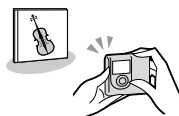
MD Simple Burner
パソコンのCDドライブに入れた音楽CDから、
ハードディスクに保存することなく、直接本機に
音楽を録音できます。

カラー液晶画面で情報を見ながら、音楽を楽しめます

従来の60/74/80分ディスクも、再生できます。
Hi-MDモードで使うと、本機で撮った画像を
音楽のジャケットに設定できます。設定した
ジャケットを使って、聞きたい音楽のグループを
探すことができます（☞本書の27ページ）。

音楽と画像を一緒に楽しむ Hi-MDモード

本機で撮った画像を、音楽のジャケットに設定し楽しめます

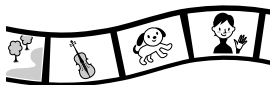
お好みの画像を撮ります
（☞本書の30ページ）。

画像を音楽のジャケットに設定します
（☞本書の30、46ページ）。

音楽を聞きながら、ジャケットを
見ることができます（☞本書の26、27ページ）。
またジャケットを使って、聞きたい音楽のグループを
探すことができます（☞本書の27ページ）。

音楽を聞きながら、画像を
スライドショーで見ることができます

（☞本書の27ページ）

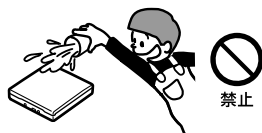
さあ、使ってみましょう！

警告

下記の注意を守らないと火災・感電、または大けがの原因となります

運転中は使用しない

- 自動車、オートバイなどの運転をしながらヘッドホンやイヤホンなどを使用したり、撮影や再生をしたり、細かい操作をしたり、表示画面を見ることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。
- また、歩きながら使用するときも、事故を防ぐため、周囲の交通や路面状況に十分にご注意ください。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因になります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐにスイッチを切り、ACパワーアダプターをコンセントから抜き、パソコンから専用USBケーブルを外して、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れない

感電の原因となります。

指定以外のUSBクレードル、ACパワーアダプター、カーバッテリーコードなどを使わない

破裂・液漏れや過熱などにより、火災、けがや周囲の汚損の原因となります。

警告

下記の注意を守らないと火災・感電、または大けがの原因となります

内部をむやみに開けない

本体および付属の機器は、むやみに開けたり改造したりすると火災や感電の原因となります。

ぬれた手でACパワーアダプターやUSBクレードルをさわらない

感電の原因となることがあります。

本体やACパワーアダプター、USBクレードルを布団などでおおった状態で使わない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

禁止

火のそばや炎天下などで充電・放置しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となります。

USBクレードルの上に金属を置かない

USBクレードルの端子が金属とつながるとショートし、発熱することがあります。

金属類と一緒に本体を携帯・保管しない

コイン、キーネックレスなどの金属類と一緒に携帯・保管すると、ショートし、発熱することがあります。

警告

下記の注意を守らないと火災・感電、または大けがの原因となります

自動車内の運転者に向けてフラッシュを使用しない

運転者に向けてフラッシュを使用すると目がくらみ、運転不可能になり、事故を起こす原因になりますので、使用しないでください。

可燃性/爆発性ガスのある場所でフラッシュを使用しない

可燃性ガスおよび爆発性ガスなどが大気中に存在するおそれがある場所では使用しないでください。引火、爆発の原因になります。

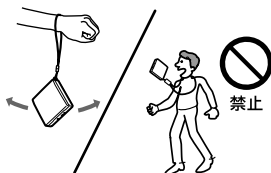
撮影時は周囲の状況に注意をはらう

周囲の状況を把握しないまま、撮影を行わないでください。事故やけがなどの原因となります。

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。特にフラッシュや液晶画面には高電圧回路が内蔵されており危険ですので、絶対に自分で分解しないでください。また、レーザーが機器に内蔵されている場合、目に障害をおよぼすことがあります。
内部の点検や修理はお客様ご相談センターにご依頼ください。

持ち運びのときに振り回さない

ハンドストラップ、ネックストラップをご使用の場合は、本体を振り回さないようにご注意ください。本体に衝撃を与えたり、ドアにはさまったりすると故障やけがの原因となります。持ち運ぶ際には手で押さえるか、ポケットに入れるなどして本体を固定してください。

注意 下記の注意を守らないと**けが**や**視覚障害**を起こしたり周辺の**家財**に**損害**を与えることがあります。

大音量で長時間続けて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。とくにヘッドホンで聞くときにご注意ください。呼びかけられて返事ができるぐらいの音量で聞きましょう。

禁止

はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音が出て耳をいためることがあります。ボリュームは徐々に上げましょう。とくに、MD、CDやDATなど、雑音の少ないデジタル機器をヘッドホンで聞くときにはご注意ください。

禁止

通電中のACパワーアダプターやUSBクレードル、製品に長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因になることがあります。

禁止

フラッシュを至近距離で人に向けない

フラッシュを人の目の前（特に乳幼児）に近づけて使用しないでください。目の近くで発光させると視力障害を起こす危険があります。特に乳幼児を撮影するときには1m以上離れてください。

禁止

フラッシュの発光部を手で触らない

フラッシュ発光部を手で覆ったまま発光しないでください。
発光後も発光部に手を触れないでください。やけどの原因になることがあります。

禁止

レンズや液晶画面に衝撃を与えない

レンズや液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。

禁止

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、以下の注意事項を必ずお守りください。

電池の種類については、電池本体上の表示をご確認ください。種類によっては該当しない注意事項もあります。

充電式電池
リチウムイオン（Li-ion）

⚠危険 充電式電池が液漏れしたとき

- 充電式電池の液が漏れたときは、素手で液をさわらない。
- 液が本体内部に残ることがあるため、お客様ご相談センターまたはソニーサービス窓口に相談する。
- 液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるため、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師に相談する。
- 液が身体や衣服についたときは、やけどやけがの原因になるため、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談する。

⚠危険 充電式電池について

- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 取扱説明書に記載された充電方法以外で充電しない。
- バッテリーキャリングケースが付属されている場合は、必ずキャリングケースに入れて携帯、保管する。
- 火の中に入れない。
- ショートさせたり、分解、加熱しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 火のそばや直射日光のあたるところ、炎天下の車中など、高温の場所で使用、保管、放置しない。
- 水などで濡らさない。風呂場などの湿気の多いところで使わない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり、傷つけない。
- 指定された種類の充電式電池以外は使用しない。
- 長時間使用しないときや、長時間ACパワーアダプターで使用するときは取りはずす。
- 液漏れした電池は使わない。

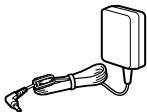
⚠警告 USBクレードルについて

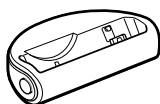
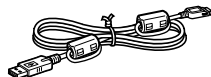
- USBクレードルにコイン、キー、ネックレスなどの金属類を置かないでください。充電端子が金属につながると、ショートし、発熱することがあります。
- 付属のUSBクレードルは本機専用です。他機の充電はできません。
- 付属のUSBクレードルでは、指定の電池以外は充電しないでください。

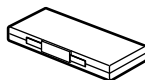
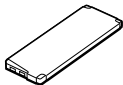
お願い

使用済み充電式電池は貴重な資源です。端子（金属部分）にテープを貼るなどの処理をして、充電式電池リサイクル協力店にご持参ください。

付属品を確かめる

- ACパワーアダプター（100～240V用）

- リモコン（漢字・カナ表示対応）

- USBクレードル　• ヘッドホン

- クレードル接続専用USBケーブル（L）

- 本体接続専用USBケーブル（S）

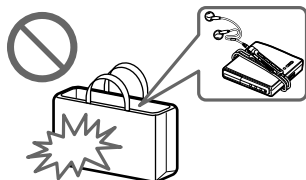
- 充電式リチウムイオン電池 LIP-4WM　• 充電池ケース

- キャリングポーチ
- フェライトコア（リモコン用）
- CD-ROM*（SonicStage/MD Simple Burner）

  *音楽CDプレーヤーで再生しないでください。
- 取扱説明書（本書）
- パソコンから音楽を転送しよう！（SonicStage/MD Simple Burner インストール・操作ガイド）
- 保証書
- ソニーご相談窓口のご案内
- カスタマー登録のお願い

ご注意

本機をお使いになるときは、キャビネットの変形や故障を防ぐために、次のことを必ずお守りください。

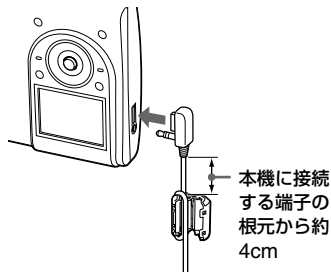
－本機をズボンなどの後ろのポケットに入れて座らない。

－本体にリモコン/ヘッドホンを巻き付けたまま、かばんの中に入れ、外から大きな力を加えない。

付属のフェライトコアの使いかた

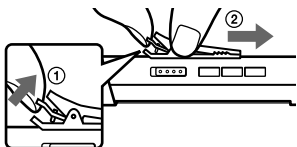
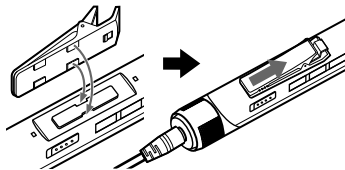
本機にはリモコン用のフェライトコアを付属しています。情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づき、周囲の機器への障害を防ぐためのものです。

リモコンを接続した状態の本機をパソコンに接続して使うときは、次の手順でリモコンのコードにフェライトコアを付けてください。パソコンに接続しないで使うときには、付けなくても問題はありません。

1 フェライトコアを開く。

2 フェライトコアにコードを1回巻きつける。

3 カチッと音がするまで押して、フェライトコアを閉じる。

リモコンのクリップの向きを変えるには

1 リモコン裏面のクリップをはずす。

2 左右反対に取り付け直す。

海外で使うときは

付属のACパワーアダプターは、100 ～ 240Vの電源電圧に対応しています。コンセントの形にあったプラグアダプターをご用意いただければ、海外でも使えます。

別売りアクセサリー

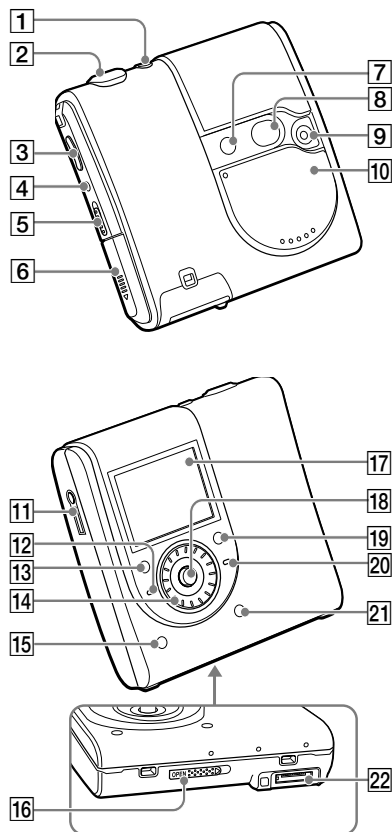
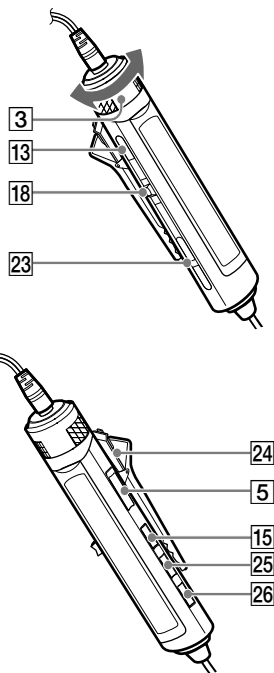
- ステレオヘッドホン* MDR-EX51SP、MDR-EX71SL、MDR-E931SP
- アクティブスピーカー SRS-Z510/Z30 など
- ミニディスク（生ディスク）ESシリーズ
- Hi-MD規格専用1GBディスク HMD1G
- リチウムイオン充電池 LIP-4WM
- Hi-MDウォークマン専用メモリーカードリーダー MCMD-R1

* ヘッドホンは、ステレオミニプラグのものをお求めください。マイクロプラグのものは使えません。

下記の機種は、本機では使えません。

– ロータリーコマンダー RM-WMC1
– MDラベルプリンター MZP-1
– ICメモリー・リピートラーニング・MDコントローラー RPT-M1

各部のなまえ

本体

リモコン

1 📷/▶（撮影/閲覧切り換え）ボタン（☞28、32ページ）

2 シャッターボタン（☞29ページ）

3 本体：
VOL（ボリューム）＋[1]/－ボタン（☞22ページ）

リモコン：
VOL（ボリューム）＋/－つまみ（☞23ページ）

4 DOWNLOAD（ダウンロード）ボタン[2]（☞61ページ）

5 HOLD（ホールド）スイッチ（☞23ページ）

6 充電池入れ

7 フラッシュ発光部

8 鏡

9 レンズ

10 レンズカバー（AUDIO/PHOTO切り換え）[3]

11 🎧（ヘッドホン）ジャック（☞22ページ）

12 CHG（チャージ）ランプ（☞18ページ）

13 本体：
■（停止）/CANCEL（キャンセル）ボタン（☞24ページ）
リモコン：
■（停止）ボタン（☞24ページ）

14 ジョグダイヤル

15 本体：
•DISPLAY（ディスプレイ）/━SLIDE（スライド） SHOW（ショー）ボタン（☞26、27、37ページ）
リモコン：
DISPLAY（ディスプレイ）ボタン（☞26ページ）

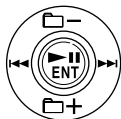
16 OPEN（オープン）つまみ（☞22ページ）

17 液晶画面

18 本体：
集中コントロールキー
（⏮、▶❚❚/ENT（エンター）[1]、⏭、🗀＋、🗀－）

リモコン：
ジョグレバー（⏮、▶❚❚/ENT（エンター）、⏭）

19 ⌘ SEARCH（サーチ）ボタン（☞27ページ）

20 OPR（オペレーション）ランプ（☞53ページ）

21 MENU（メニュー）ボタン（☞38ページ）

22 USBクレードル用コネクター

23 🗀（グループ）＋/－ボタン（☞24ページ）

24 クリップ（☞15ページ）

25 P（プレイ） MODE（モード）/↻（リピート）ボタン（☞44ページ）

26 SOUND（サウンド）ボタン（☞41ページ）

1）凸点（突起）が付いています。操作の目印としてお使いください。

2）付属のMD Simple Burnerソフトウェアを使って、パソコンのCDドライブに入れた音楽CDから本体のMDに録音するときに使います。詳しくは、別冊「パソコンから音楽を転送しよう！」をご覧ください。

3）レンズカバーが閉じているときは音楽再生モード、レンズカバーが開いているときは撮影モード、または閲覧モードになります。

ご注意

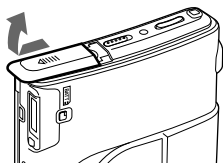
リモコンは、画像の撮影や画像を閲覧するときに、使うことはできません。

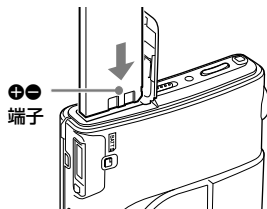
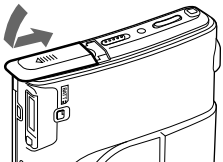
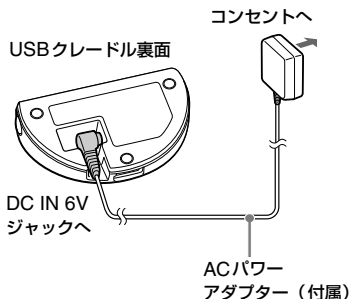
誤操作を防ぐには（HOLD機能）

5 のHOLDスイッチを矢印の方向にずらすと、操作ができなくなります。かばんの中などに入れて持ち歩くとき、ボタンが押されて誤作動するのを防ぎます。
本体とリモコンを別々に、HOLD状態にできます。例えば、本体をHOLD状態にしても、リモコンをHOLD状態にしなければ、リモコンで操作できます。

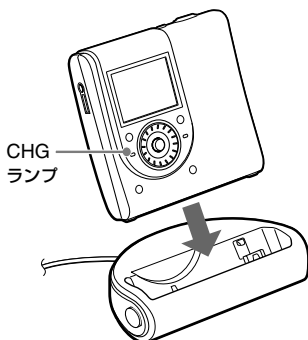
充電する

初めて使うときや電池が消耗したときは、充電式電池（充電池）を充電してください。充電池は消耗しきってから充電すると、長持ちします。
付属のUSBクレードルは本機専用のため、他機は充電できません。
充電中も操作できます。

1 **充電池入れのふたを、矢印の方向へ押しながらずらして開ける。**

2 **充電池を入れる。**

⊕⊖端子側を奥に、電池の表面が液晶画面側になるように入れます。

3 **ふたを閉める。**

4 **USBクレードルとACパワーアダプターをつなぎ、コンセントにつなぐ。**

5 **本体をUSBクレードルにのせ、押しながらはめ込む。**

6 **CHG（チャージ）ランプが点灯したことを確認する。**

充電が始まります。
リモコン接続時は、リモコンの表示窓に 表示と充電が完了するまでの時間（「---min left」）が表示されます。

CHGランプが消えたら、充電は完了です。

使いきった状態から充電を始めると、約1時間でCHGランプが消え、充電が一度完了します。CHGランプが消えた時点で、約80%充電となります。その後さらに2時間ほどすると、100%充電完了となります。
また、充電してもすぐにCHGランプが消える場合は、充分に充電されています。

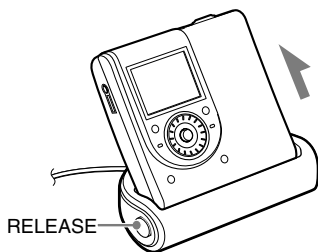
AC電源で使うには

充電池を消耗させずに使えます。

1 USBクレードルとACパワーアダプターをつなぎ、コンセントにつなぐ。

2 本体をUSBクレードルにのせ、押しながらはめ込む。

USBクレードルから本体を取り外すには

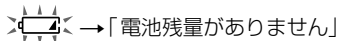
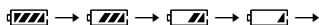
RELEASEを押します。

ご注意

- お買い上げ時や長い間使わなかった場合、充電池の使用可能時間が短いことがあります。これは電池の特性によるもので、何回か充放電を繰り返すと充分に充電されるようになります。
- 充電にかかる時間は、周囲の温度によって異なります。＋5℃～＋35℃内の温度の場所で充電してください。
- 充電池の交換は、必ず本機を停止してから行ってください。
- 画像撮影モード時は、充電できません。

充電池の残量を確認するには

表示窓に以下のように表示されます。黒い目盛りが少なくなるほど、残量が減っています。

→ → → →

→「電池残量がありません」

充電池が消耗しきったら、充電してください。

ご注意

- 残量表示は目安です。1つの目盛りが4分の1を示しているわけではありません。
- 動作状況により、残量表示は増減します。

次のページにつづく

充電池の使用可能時間[1)]

使用する状況によって、時間は異なります。

音楽を聞くとき

Hi-MD モード	リニア PCM	Hi-SP	Hi-LP	MP3[2)]
Hi-MD規格専用1GBディスク	約8時間30分	約12時間	約14時間	約13時間
60/74/80分ディスク	約7時間	約11時間30分	約14時間	約12時間30分

MD モード	SP	LP2	LP4
60/74/80分ディスク	約13時間	約14時間	約14時間30分

電子情報技術産業協会（JEITA）の測定方法に基づいています。

1）充電式リチウムイオン電池100%充電時に、連続再生した場合

2）128kbpsで転送した曲の場合

音楽を聞きながらスライドショーで画像を見るとき

Hi-MD モード	リニア PCM	Hi-SP	Hi-LP	MP3[2)]
Hi-MD規格専用1GBディスク	約1時間45分	約2時間	約2時間	約2時間
60/74/80分ディスク	約1時間45分	約2時間	約2時間	約2時間

電子情報技術産業協会（JEITA）の測定方法に基づいています。

画像を撮るとき[3)]

Hi-MD モード	撮影枚数
Hi-MD規格専用1GBディスク	約110枚
60/74/80分ディスク	約100枚

カメラ映像機器工業会（CIPA）の測定方法に基づいています。

3）以下の設定で撮影した場合

－30秒ごとに1回撮影する

－2回に1度、フラッシュを発光する

－10回に1度、電源を入れ直す

－1.3Mファインで撮影する

画像を見るとき[4)]

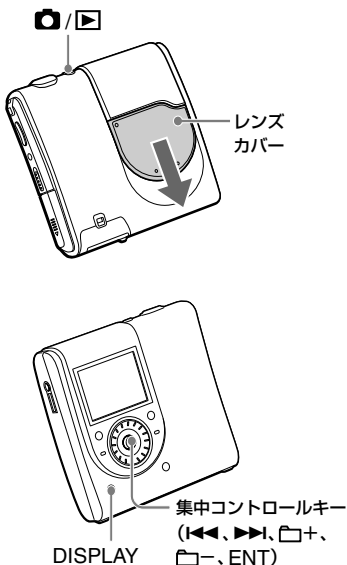
Hi-MD モード	閲覧時間
Hi-MD規格専用1GBディスク	約1時間
60/74/80分ディスク	約1時間

4）約5秒ごとに1枚表示画面を順番に閲覧した場合

ご注意

- 本体の液晶画面が常に点灯し続ける使用状況では、使用可能時間が著しく短くなります。
- 撮影枚数は、使用状況によっては、記載より少ない数値になる場合があります。

時計を合わせる

時計を合わせておくと、画像を撮ったときの日時を記録できます。
付属のSonicStageソフトウェアを起動している状態でパソコンに本機を接続すると、パソコンの時刻が自動的に本機に設定されます。

1 **レンズカバーを開けて、撮影モードにする。**

初めて撮影モードにしたときに、時計設定画面が表示されます。

2 **集中コントロールキーを⏮/⏭側に繰り返し倒して、設定したい項目を選ぶ。**

3 **集中コントロールキーを 📁+/−側に繰り返し倒すか、またはジョグダイヤルを回して、数値を選ぶ。**

DISPLAYを押すと、12時間表示と24時間表示を切り換えることができます。

4 **手順2と3を繰り返し、すべての項目を設定する。**

5 **「分」が選択された状態で、集中コントロールキー（▶II/ENT（エンター））を押す。**

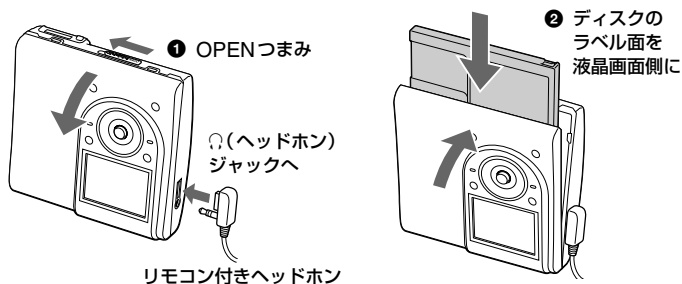
日付と時刻が設定され、時計が動き始めます。

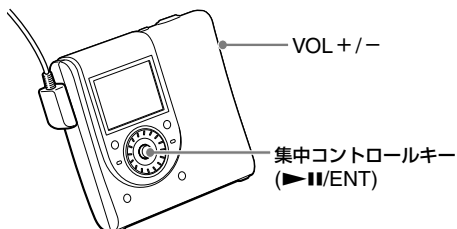
ご注意

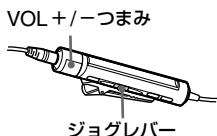
- 一度設定した時計を合わせ直すときは、メニューで時計設定を選んでから設定してください（☞43ページ）。
- 充電池が消耗しきった状態や、充電池を抜いた状態で数分間放置しておくと、時計設定がリセットされることがあります。

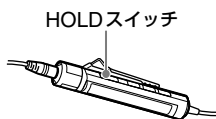
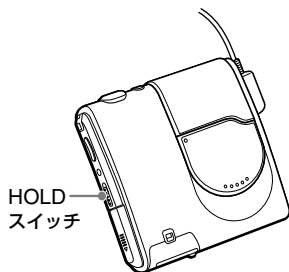
聞く

1 **OPENつまみをずらしてふたを開け（❶）、矢印（❷）の向きに録音済みのディスクを奥まで押し入れ、ふたを閉める。**

あらかじめリモコン付きヘッドホンを、本体につないでおきます。

2 **集中コントロールキー（►II/ENT）を押して再生を始め、VOL＋/－を押して音量を調節する。**

液晶画面で音量を確認できます。

リモコンで操作するときは

ディスクを入れてジョグレバー（►II/ENT）を押すと、再生が始まります。VOL＋/－つまみを回して、音量を調整します。

再生が始まらないときは

HOLD（誤操作防止）スイッチを確認してください（☞17ページ）。HOLDスイッチを矢印と反対の方向にずらすと、HOLD状態を解除できます。

ご注意

- 音楽を停止してから約10秒間操作をしないと、電池の消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます（オートパワーオフ機能）。
- 音楽を再生中に、約30秒間操作をしないと、電池の消耗を防ぐため、本体の液晶画面は自動的に消灯します。再度液晶画面を表示させるには、本体のDISPLAYを押してください。ACパワーアダプター接続中は、常時点灯しています。

次のページにつづく ➡

再生の基本操作

こんなときは		本体操作（リモコン操作）
再生	続きから再生する	集中コントロールキー（▶II/ENT）を押す。前回再生を止めたところから始まる。（ジョグレバーを押す。）
	1曲目から再生する	停止中に、集中コントロールキー（▶II/ENT）を2秒以上押したままにする。 （停止中に、ジョグレバーを2秒以上押したままにする。）
停止	一時停止する/ 一時停止を解除する	集中コントロールキー（▶II/ENT）を押す。 （ジョグレバーを押す。）
	再生を止める	■/CANCELを押す。（■を押す。）
頭出し/サーチ	曲番や曲名を直接選ぶ（ダイレクト選曲）	ジョグダイヤルを回して聞きたい曲を選び、集中コントロールキー（▶II/ENT）を押す。
	今聞いている曲、またはさらに前の曲を頭出しする	集中コントロールキーを I◀◀ 側に1度倒す。または、さらに戻したい曲数だけ I◀◀ 側に倒す。 （ジョグレバーを I◀◀ 側に1度動かす。または、さらに戻したい曲数だけ I◀◀ 側に動かす。）
	次の曲を頭出しする	集中コントロールキーを ▶▶I 側に1度倒す。 （ジョグレバーを ▶▶I 側に1度動かす。）
	早戻し/早送りする	再生中または一時停止中に、集中コントロールキーを I◀◀/▶▶I 側に倒したままにする。 （再生中または一時停止中に、ジョグレバーを I◀◀/▶▶I 側に動かしたままにする。）
	グループの頭出しをする* （グループスキップ）	集中コントロールキーを 🗀+/－側に倒す。 （🗀+/－を押す。）
ディスクを取り出す		■/CANCELを押してから、OPENつまみをずらしてふたを開ける。** （■を押してから、本体のOPENつまみをずらしてふたを開ける。）

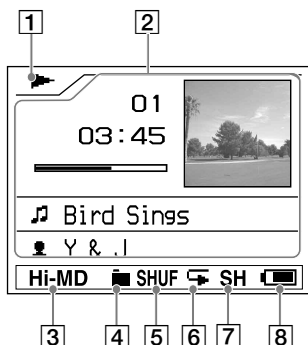
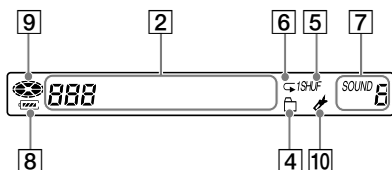
*　ディスクにグループがない場合は、10曲ごとに頭出しされます。

**　ふたを開けると、次の再生はディスクの最初から始まります。

ご注意

次のような場合、音が飛ぶことがあります。
－強い衝撃が連続的に与えられた場合
－傷や汚れのあるディスクを聞いている場合
Hi-MDモードのディスクの場合、最大で約12秒間音が途切れることがあります。

聞くときの画面表示

本体画面

リモコン画面

1 再生状態（☞24ページ）
►：再生
■：停止
II：一時停止
◄◄/►►：早送り/早戻し
I◄◄/►►I：頭出し

2 文字情報

- 再生中の曲情報
  曲番（例：01）
  経過時間（例：03：45）
  残り時間（例：－00：52）
- 残りの曲情報
  残りの曲数（例：－06）
  残り時間（例：－01：55：14）
- 名前
  ：曲名
  ：グループ名
  ：ディスク名
  ：アーティスト名
  ：アルバム名
- 録音に関する情報
  録音年月日*（例：'03 08/29）
  録音再生形式（例：ATRAC3plus）
  曲の録音モード（例：Hi-SP）
  ビットレート（例：256k）
- ジャケット

3 Hi-MDモード/MDモード表示（☞73ページ）

4 メイン再生モード（☞40ページ）

5 サブ再生モード（☞40ページ）

6 リピート（☞40ページ）

7 サウンド（☞41ページ）

8 電池残量（☞19ページ）

9 ディスク表示

10 ブックマーク（☞44ページ）

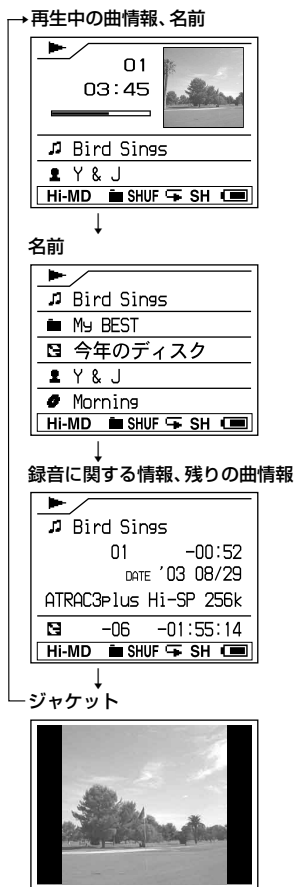
* 録音年月日が記録されている場合に、表示されます。

ご注意

パソコンから転送した曲の場合、録音年月日は付属のソフトウェアで曲情報が持っている年月日が表示されます。ただし、年月日が1979年以前の場合は、本機では表示されません。

次のページにつづく ➡

本体の画面表示を変えるときは

本体のDISPLAYを繰り返し押します。
押すたびに、次のように文字情報（☞25ページの2）の内容が切り換わります。

リモコンの画面表示を変えるときは

リモコンのDISPLAYを繰り返し押します。
押すたびに、次のように画面が切り換わります。

* 録音年月日が記録されている場合に、表示されます。停止中は現在の時刻が表示されます。

ご注意

- ディスクのグループ設定状態、動作状態、設定状況により、表示が異なります。
- MP3で可変ビットレート（VBR）の曲の場合、表示されるビットレートはSonicStageで表示されるビットレートと一致しないことがあります。
- パソコンから転送した曲の場合、録音年月日は付属のソフトウェアで曲情報が持っている年月日が表示されます。ただし、年月日が1979年以前の場合は、本機では表示されません。

曲を検索する

聞きたい曲を、グループ一覧から探すことができます。

1 ⌘ SEARCH（サーチ）を押す。

音楽のグループ一覧が表示されます。

Hi-MDモードで、「メイン再生モード」が「通常再生」または「グループ再生」のとき

Morning
08 32:38
EVENING MAN
12 53:25
夜明け
08 01:26:25
移動 ●決定 ■戻る

その他のとき

アーティスト再生
Y & J
ThomasY
BIG EYE
ザ パーシーズ
Chocolate Eaters
移動 ●決定 ■戻る

2 ジョグダイヤルを回してグループを選び、集中コントロールキー（▶II/ENT）を押す。

3 ジョグダイヤルを回して聞きたい曲を選び、集中コントロールキー（▶II/ENT）を押す。

再生が始まります。

ジャケット画像一覧から探すには

手順**1**で、もう一度 ⌘ SEARCHを押します。Hi-MDモードで、「メイン再生モード」が「通常再生」または「グループ再生」のときは、ジャケット画像の12枚表示画面に切り換わります。

聞きながら画像を見る

Hi-MDモード

音楽を聞きながら、本機で撮った画像を連続して表示できます（スライドショー）。

1 音楽を再生中に、SLIDE SHOW（スライド ショー）を2秒以上押す。

ディスク内にある、本機で撮ったすべての画像が連続して表示されます。

表示する順番を変えるには

本機で撮った画像を、順不同に表示できます。設定方法は、☞43ページをご覧ください。

スライドショーをやめるには

SLIDE SHOWを2秒以上押します。

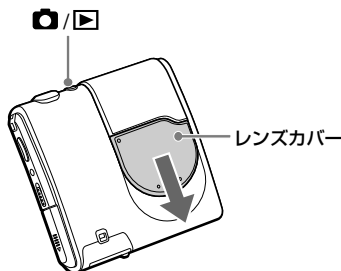
ご注意

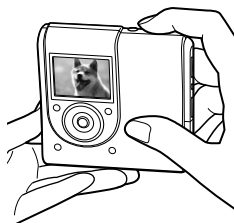
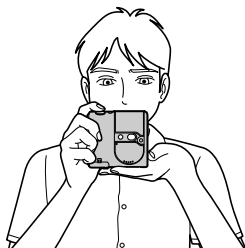
- スライドショーでは、液晶画面は常時点灯しています。そのため、音楽の再生時間が著しく短くなります。
- スライドショーを開始するとき、または終了するときに、再生している曲が一時的に途切れます。
- ディスク内にある、本機で撮ったすべての画像が表示されます。フォルダを選び、その中にある画像のみの表示はできません。
- 「スライドショー」（☞43ページ）が「通常再生」のときは画像は横方向から、「シャッフル再生」のときは、上下左右の各方向からランダムに表示されます。
- 1つの画像の表示時間は約3秒です。表示時間は変更できません。
- すべての画像を表示し終えても、スライドショーは停止しません。停止するには、SLIDE SHOWを2秒以上押してください。
- スライドショー中は、曲の早戻し、早送りはできません。
- スライドショーで表示される画像は、元の画像よりも粗くなります。

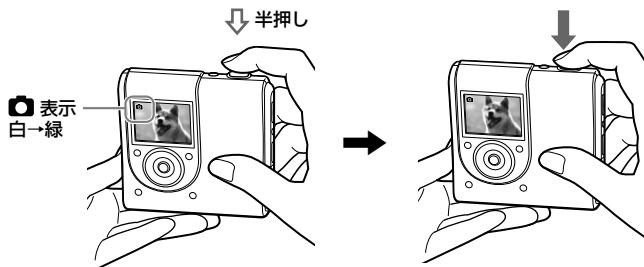
撮る Hi-MDモード

本機は、AE/AF機能を採用しているため、露出、ピントが自動で調整され、画面中央部に合います。ピント合わせに必要な被写体までの距離は、約50cmです。これより近くの被写体を撮影するときは、マクロ撮影（☞36ページ）してください。

1 レンズカバーを開ける。

撮影モードになります。レンズカバーが開いている状態で電源が切れているときは、📷/▶を押してください。

2 両手でカメラを構え、被写体を画面中央部におさめる。

レンズやフラッシュ発光部に、指がかからないようにしてください。

3 **シャッターを半押しする。「ピピッ」と音がして、画面内の 📷 表示が白から緑に変わったら、シャッターをそのまま押し込む。**

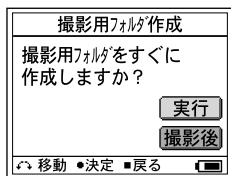
シャッター音がして撮影が完了し、画像がJPEG形式でディスクに保存されます。「DATA SAVE」が消えると、次の画像を撮影できます。

集中コントロールキーを使った基本操作

操作	機能
ジョグダイヤルを回す	ズームで撮る（☞34ページ）
▶II/ENTを押す	クイックレビュー（☞36ページ）
I◀◀ 側に倒す	ジャケット撮影（☞30ページ）
▶▶I 側に倒す	マクロ撮影（☞36ページ）
🗀－側に倒す	フラッシュ（☞35ページ）
🗀＋側に倒す	セルフタイマー（☞35ページ）

撮影を中止するには

シャッターを離せば、いつでも撮影を中止できます。

画像を保存するフォルダについて

初めて撮影するディスクの場合、画像を保存するフォルダがないため、ディスクを入れると、手順**1**の後に、撮影用フォルダ作成画面が表示されます。

「実行」を選ぶと、「DCIM」フォルダ内に「101_HIMD」フォルダが作成されます。「撮影後」を選んだ場合は、1枚目を撮影後に、自動的に「101_HIMD」フォルダが作成されます。このため、1枚目を撮影した後はディスクに保存する時間が少し長くなります。

次のページにつづく ➡

ピント合わせについて

ピントを合わせにくい被写体を撮影しようとしたときは、点滅していた📷表示が遅い点滅に変わります。
下記の条件でピントが合いにくいことがあります。構図を変えるなどしてもう一度ピントを合わせてみてください。

－被写体が遠くて暗い
－被写体と背景のコントラストが弱い
－ガラス越しの被写体
－高速で移動する被写体
－鏡や発光物など反射、光沢のある被写体
－点滅する被写体

システムファイルの書き込みについて

システムファイルは、情報を記録するディスク上の領域です。本機は画像を撮り、レンズカバーを閉じた後などに、システムファイルへ情報を書き込みます。書き込み中は、「システムファイルの書込み中です」が表示され、操作できません。書き込み中は、充電池を取り出さないでください。ディスクに入っているデータが壊れることがあります。
システムファイルの書き込み作業を行うのは、下記のときです。

－レンズカバーを閉じたとき
－画像を保存するフォルダがないディスクで、初めて画像を撮影したとき
－フォルダを新しく作成したとき
－📷/▶を押して、閲覧モードに切り換えたとき
－画像を削除したとき
－画像を音楽のジャケットに設定したとき（☞46ページ）

ご注意

- 撮影モードのときに、📷/▶を押すと、閲覧モードになります。
- レンズが汚れている場合は、柔らかい布などできれいにしてください（☞68ページ）。
- 晴天の屋外など、強い光の下で撮影すると画面に不要な光（ゴースト）が入ることがあります。このようなときは、手をレンズの上方にかざすなどして、光をさえぎって撮影してください。
- メニューが表示されているときは、最初にMENUを押してメニューを消してください。
- 画像の撮影中に、本機の電源を入れたまま約3分間操作をしないと、電池の消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます（オートパワーオフ機能）。

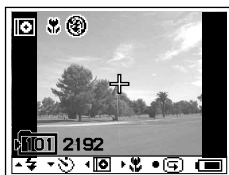
ジャケットを撮る

画像をジャケット画像として撮り、音楽のグループにジャケット設定すると、音楽を聞きながらジャケットを見ることができます（☞26、27ページ）。またジャケットを使って、聞きたい音楽のグループを探すことができます（☞27ページ）。ジャケット撮影モード以外で撮った画像も、ジャケットに設定できます（☞46ページ）。

1 レンズカバーを開ける。

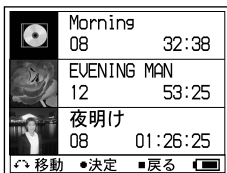
撮影モードになります。

2 集中コントロールキーを⏮側に1度倒す。

📷が◙に変わり、画面の両端が黒くなります。

3 **シャッターを押す。**

撮影が完了し、音楽のジャケットに設定する画面が表示されます。

4 **音楽のジャケットに設定するには、ジョグダイヤルを回して「はい」を選ぶ。**

音楽のグループ一覧が表示されます。

「いいえ」を選んだ場合は、後でジャケット設定できます。☞46ページをご覧ください。

5 **ジョグダイヤルを回してグループを選び、集中コントロールキー（►II/ENT）を押す。**

確認画面が表示されます。

6 **ジョグダイヤルを回して「実行」を選び、集中コントロールキー（►II/ENT）を押す。**

選んだ音楽のグループにジャケットが設定されます。

操作を途中でやめるには

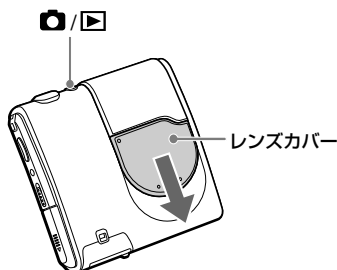
■/CANCELを押します。

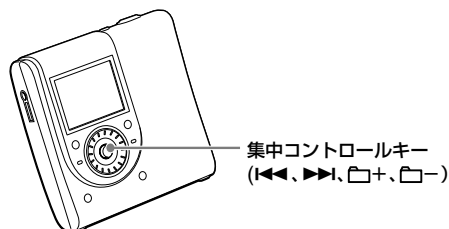
ご注意

- ジャケットは、音楽のグループごとに設定されます。SonicStageを使って曲を転送するときは、アルバム単位で転送してください。曲単位で転送すると、グループが作成されないため、本機でジャケット設定できません。
- ディスクにグループがない場合は、ジャケット設定画面は表示されません。
- ジャケットとして撮影した場合の画像サイズ（画素数）は200×200、画質（圧縮率）は「ファイン」になります。画像サイズと画質は選べません。
- すでにジャケット設定している音楽に別の画像をジャケット設定すると、上書きされます。

見る Hi-MDモード

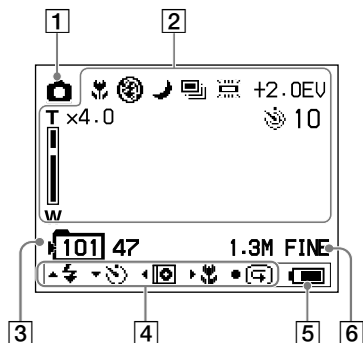
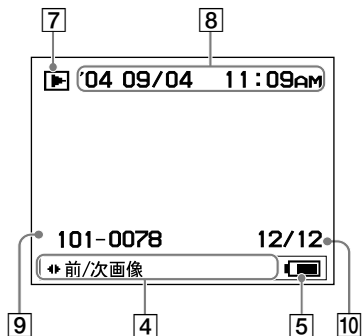
1 **レンズカバーを開けてカメラを起動させてから、📷/▶を押す。**

閲覧モードになります。

2 **集中コントロールキーを⏮/⏭側に繰り返し倒して、見たい画像を選ぶ。**

集中コントロールキーを 🗀+/－側に繰り返し倒すと、前後のフォルダにある画像を見ることができます。

ご注意

- 画像閲覧モードのときに、📷/▶を押すと、撮影モードになります。
- 画像の閲覧中に、本機の電源を入れたまま約3分間操作をしないと、電池の消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます（オートパワーオフ機能）。

撮る/見るときの画面表示 Hi-MDモード

撮るとき

見るとき

1 モード表示
- : 撮影（☞28ページ）
- : ジャケット撮影（☞30ページ）

2 撮るときに使う機能表示
- : マクロ（☞36ページ）
- : フラッシュ（☞35ページ）
- : ナイトモード（☞47ページ）
- : 連写（☞47ページ）
- : ホワイトバランス（☞47ページ）
- : セルフタイマー（☞35ページ）
- 露出補正（☞47ページ）
- ズーム（☞34ページ）

3 フォルダ番号、撮影可能枚数*

4 操作ガイド表示（☞39ページ）
操作に使うボタンと機能を表しています。
- : フラッシュ（☞35ページ）
- : セルフタイマー（☞35ページ）
- : ジャケット撮影（☞30ページ）
- : マクロ（☞36ページ）
- : クイックレビュー（☞36ページ）

5 電池残量表示（☞19ページ）

6 画像サイズ、画質（☞47ページ）

7 モード表示
- : 閲覧
- : JPEGビューワー（☞51ページ）
- : スライドショー再生（☞37ページ）

8 記録日時

9 フォルダ番号、画像ファイル番号

10 フォルダ内画像枚数

* 撮影できる枚数は、設定や状況によって変わります。撮影可能枚数は、目安です。

次のページにつづく

撮るときの画面表示を変えるには

本体のDISPLAYを繰り返し押します。
押すたびに、次のように画面が切り換わります。

→撮るときに使う機能を表示する

操作ガイド表示を消す

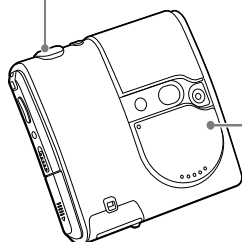
見るときの画面表示を変えるには

本体のDISPLAYを繰り返し押します。
押すたびに、次のように画面が切り換わります。

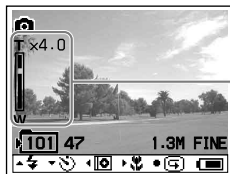
→記録日時などを表示する

表示を消す

撮る/見るで使う機能

Hi-MDモード

ズームで撮る

1 **撮影モードで、ジョグダイヤルを回して、画面を希望の倍率にする。**

ズームの倍率は、4倍までの10段階で設定できます。

2 シャッターを押す。

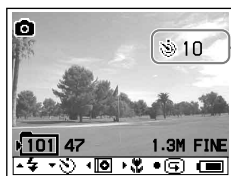
選んだズームの倍率で、撮影されます。

ご注意

光学ズームではないため画像が粗くなります。

セルフタイマーで撮る

1 撮影モードで、集中コントロールキーを 🗀+側に1度倒す。

画面に ⍥（セルフタイマー）が表示されます。

2 シャッターを押す。

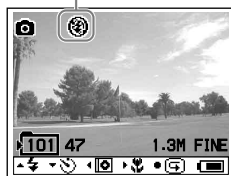
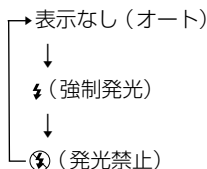
フラッシュ発光部が赤色に点滅し、「ピッピッピッ」と音が鳴ります。約10秒後に撮影されます。

通常の操作に戻すには

集中コントロールキーを 🗀+側に倒します。画面から ⍥ が消えます。

フラッシュモードを選ぶ

1 撮影モードで、集中コントロールキーを 🗀−側に繰り返し倒して、フラッシュモードを選ぶ。

画面にフラッシュモードが表示されます。

倒すたびに、次のように変わります。

表示なし（オート）：撮影状況の光量が足りないと判断した場合、自動的に発光します。

ϟ（強制発光）：周囲の明るさに関係なく発光します。

⊘（発光禁止）：発光しません。

次のページにつづく ➡

被写体に近接して撮る（マクロ撮影）

花や昆虫など、小さな被写体に接近して撮りたいときは、近接（マクロ）撮影をします。レンズ先端から約10cmまで被写体に接近して撮影できます。

1 **撮影モードで、集中コントロールキーを▶▶I側に1度倒す。**

画面に（マクロ）が表示されます。

マクロ表示

2 **シャッターを押す。**

通常の撮影に戻すには

集中コントロールキーを▶▶I側に倒します。画面からが消えます。

ご注意

ピントを合わせるのに、少し時間がかかる場合があります。

撮影中に最後に撮った画像を見る（クイックレビュー）

1 **撮影モードで、集中コントロールキー（▶II/ENT）を押す。**

最後に撮った画像が表示されます。

通常の撮影に戻すには

■/CANCELを押します。

表示された画像を削除するには

MENUを押します。ジョグダイヤルを回して「削除」を選び、集中コントロールキー（▶II/ENT）を押します。

ご注意

- 最後に撮影した画像は、電源を切ると表示されません。
- 連写のときは、最後に撮影した画像を表示します。残りの3枚の画像は表示されません。
- ジャケットとして撮って音楽とリンクした画像は、表示されません。

9枚表示画面で見る

9枚の画像を同時に見ることができます。

1 閲覧モードで、⊠ SEARCHを押す。

9枚表示画面に切り換わります。

次の9枚表示画面を表示するには、ジョグダイヤルを回して、水色の枠を上下に動かします。

1枚表示画面に戻すには

集中コントロールキー（▶II/ENT）を押します。

画像の一部を拡大して見る（閲覧ズーム）

本機で撮った画像を、元の画像の4倍まで拡大して見ることができます。

1 閲覧モードでジョグダイヤルを回して、画像を希望の倍率に拡大する。

ズームの倍率は、4倍までの10段階で設定できます。

2 集中コントロールキーを⏮/⏭/🗀＋/－側に繰り返し倒して、拡大したい部分を見る。

元のサイズに戻すには

■/CANCELを押します。

ご注意

閲覧ズーム中は、前/次の画像を選ぶことはできません。

連続して表示する（スライドショー）

本機で撮った画像を、連続して順番に表示します。

1 閲覧モードで、SLIDESHOWを2秒以上押す。

スライドショーが始まります。
すべての画像を表示し終えると、スライドショーは自動的に停止します。

表示する順番を変えるには

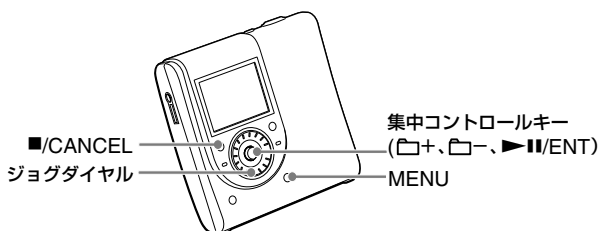
本機で撮った画像を、順不同に表示できます。設定方法は、☞43ページをご覧ください。

操作を途中でやめるには

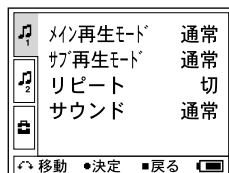
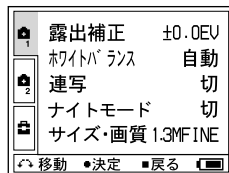
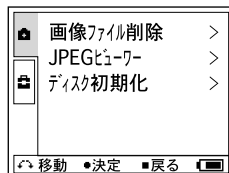
■/CANCELを押します。

ご注意

- ディスク内にある、本機で撮ったすべての画像が表示されます。フォルダを選び、その中にある画像のみの表示はできません。
- 1つの画像の表示時間は約3秒です。表示時間は変更できません。
- スライドショーは、自動的に繰り返して表示できません。
- スライドショーで表示される画像は、元の画像よりも粗くなります。

メニューを使う

1 **MENUを押す。**

メニュー画面が表示されます。状況によって、表示されるメニューは異なります。それぞれの設定項目と内容について詳しくは、☞40 ～ 51ページをご覧ください。

- 音楽を聞くとき（☞40ページ）

- 画像を撮るとき（☞47ページ）

- 画像を見るとき（☞50ページ）

2 **ジョグダイヤルを回して項目を選ぶ。**

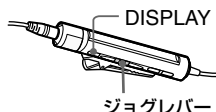
選んだ項目の画面が表示されます。

3 **集中コントロールキー（►II/ENT）を押す。**

4 **手順2 ～ 3を繰り返す。**

設定が確定します。

リモコンで操作するときは

音楽を聞いているときの設定項目の一部を、リモコンでも設定できます。

1 DISPLAYを2秒以上押す。

2 ジョグレバーを⏮/⏭側に繰り返し動かして、項目を選ぶ。

3 ジョグレバー（▶II/ENT）を押す。

4 手順**2**～**3**を繰り返す。

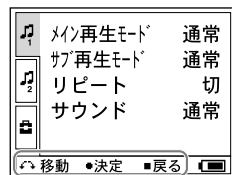
1つ前の画面に戻るには

■/CANCELを押します。

操作を途中でやめるには

■/CANCELを2秒以上押します。

操作ガイドについて

本機を操作しているとき、本体の液晶画面に操作に使うボタンと機能を示す操作ガイドが表示されます。

操作ガイドに表示されるボタンは、下記の操作を意味しています。

ボタン表示	操作
↶↷	ジョグダイヤルを回す
●	集中コントロールキー（▶II/ENT）を押す
■	■/CANCELを押す
◀	集中コントロールキーを⏮側に倒す
▶	集中コントロールキーを⏭側に倒す
▲	集中コントロールキーを🗀－側に倒す
▼	集中コントロールキーを🗀＋側に倒す

音楽を聞くときのメニュー
（音楽再生/各種設定/共通設定）

♫ 音楽再生

項目	設定内容（●：お買い上げ時の設定）	
メイン再生モード[1]（Main P. Mode）	通常再生 ●（Normal Play）	通常の再生です。
	グループ再生（Group Play）	選んだグループの曲を再生します。
	アーティスト再生（Artist Play）	選んだアーティストの曲を再生します。
	アルバム再生（Album Play）	選んだアルバムの曲を再生します。
	ブックマーク再生（Bookmark Play）	聞きたい曲にブックマーク（しおり）を付けて、その曲だけを再生します（☞44ページ）。
サブ再生モード[2]（Sub P. Mode）	通常再生 ●（Normal）	通常の再生です。
	1曲再生（1Track）	現在再生中の曲だけを再生します。
	シャッフル再生（Shuffle）	順不同に1回再生します。
	A-Bリピート再生（A-B Repeat）	1曲の中で選んだ部分を、繰り返し再生します（☞44ページ）。
リピート[3]（Repeat）	切 ●（Off）	通常の再生です。
	入（On）	繰り返し再生します。繰り返し再生する曲は、選んでいるメイン再生モード、サブ再生モードによって異なります。

サウンド[4)] （Sound）	通常 ●（Normal）		通常の音質で、再生します。
	6バンドイコライザ（Sound EQ）	SH ヘビー（SH Heavy）	低域と高域を最も強調した迫力のある音質で、再生します。
		SP ポップス（SP Pops）	低域と高域を強調したメリハリのある音質で、再生します。
		SJ ジャズ（SJ Jazz）	中域を強調したヴォーカルなどに適した音質で、再生します。
		SU ユニーク（SU Unique）	低域と高域を強調し、中域もある程度強調した音質で、再生します。
		S1 カスタム1（S1 Custom1）	自分で設定した音質で、再生します（☞45ページ）。
		S2 カスタム2（S2 Custom2）	自分で設定した音質で、再生します（☞45ページ）。

1）リモコンでも設定できます（☞39ページ）。

2）リモコンでは、P MODE/⮑を押して設定できます。

3）リモコンでは、P MODE/⮑を2秒以上押して設定できます。

4）リモコンでは、SOUNDを押して設定できます。

次のページにつづく ➡

♫ 各種設定

項目	設定内容（●：お買い上げ時の設定）	
AVLS*	切 ●（Off）	音量の制限無しで、操作に合わせて音量が変わります。
	入（On）	音もれや耳への圧迫感軽減のため、一定以上に音量が上がりません。
操作確認音 *（Beep）	切（Off）	操作時の確認音(ピッなど) は鳴りません。
	入 ●（On）	操作時の確認音が鳴ります。
バックライト設定**（Back light）	オート ●（Auto）	リモコンの表示窓のバックライトが、操作直後に約10秒間点灯します。また、表示をスクロールしている間、点灯します。
	常時点灯（On）	本体が動いているときは、常にバックライトが点灯します。
	常時消灯（Off）	常にバックライトが消灯し、電池の消耗を抑えます。
ディスクメモリー *（Disc Memory）	切（Off）	ディスクの設定情報を、登録しません
	入 ●（On）	ディスクの設定情報を、本体に自動的に登録します。ディスクを取り出すときに設定情報を自動的に登録し、ディスクを再度入れたときに、設定情報を自動的に読み出します。
	1メモリー消去（1Memory Erase）	現在入っているディスクの設定情報を、消去します。
クイックモード*（Quick Mode）	切（Off）	電池の消費を防ぐために、一定時間操作がなかった場合は、自動的に電源が切れます（オートパワーオフ機能）。
	入 ●（On）	自動的に電源は切れません。再生ボタンを押してすぐに、再生が始まります。
ディスクモード*（Disc Mode)	Hi-MD ●	従来の60/74/80分ディスクに、音楽や静止画など何も保存されていないとき、Hi-MDモードにします。
	MD	従来の60/74/80分ディスクに、音楽や静止画など何も保存されていないとき、MDモードのままにします。Hi-MDに対応していない他の危機でもお使いになる場合に、設定してください。
表示選択方法**（JP Character）	漢字優先 ●（Kanji First）	パソコンで文字入力時、全角エリアに入力した情報のみ表示します。通常はこの設定で使います。
	漢字カナ交互（Kanji & Kana）	パソコンで文字入力時、全角エリアと半角エリアにそれぞれ違う情報（例：全角エリアに曲名、半角エリアにアーティスト名など）を登録した場合などに選びます。両方の情報が表示されます。

* リモコンでも設定できます（☞39ページ）。

** リモコン用の設定です。本体では設定できません。

ご注意

- 「ディスクメモリー」によって登録される設定情報は、「ブックマーク」と「6バンドイコライザ」の「カスタム1」、「カスタム2」の設定です。
- 「ディスクメモリー」は、最大でディスク30枚分の情報を登録できます。30枚を越えると、再生した時期が古いディスクの情報から自動的に消去されます。登録できるディスク数は、ディスクに録音されている曲数によって異なります。ディスク1枚あたりの曲数が多くなると、登録できるディスク数は少なくなります。
- 「クイックモード」の設定を「入」にすると、画面に何も表示されていないときでも、本体内部では常に電源が入っている状態になっています。電池を全て消耗すると、自動的に本体内部の電源が切れます。
- Hi-MD規格専用1GBディスクをお使いのときも、「ディスクモード」の設定で「MD」を選べますが、使える動作モードはHi-MDモードのみです。
- SonicStageソフトウェアで60/74/80分ディスクを初期化した場合、または60/74/80分ディスクの音楽や静止画など何も保存されていないディスクの動作モードを選んだ場合でも、そのディスクを本機でお使いになるときの動作モードは、「ディスクモード」の設定に従います。
- 「表示選択方法」は、MDモードのときのみ切り換えることができます。Hi-MDモードのときは、切り換えることはできません。

共通設定

項目	設定内容（●：お買い上げ時の設定）	
ジャケット設定（CoverArt Link）	設定（Set）	本機で撮った画像を、音楽のグループにジャケット設定します（☞46ページ）。
	解除（Release）	ジャケット設定を解除します。
スライドショー（Slide Show）	通常再生 ●（Normal）	本機で撮った画像を、順番に表示します。
	シャッフル再生（Shuffle）	本機で撮った画像を、順不同に表示します。
表示言語（Language）	日本語 ●	本体の液晶画面に表示されるメニュー項目/メッセージとリモコンの表示窓に表示されるメニュー項目を日本語で表示します。
	English	本体の液晶画面に表示されるメニュー項目/メッセージとリモコンの表示窓に表示されるメニュー項目を英語で表示します。
時計設定（Clock Set）		時計を設定します（☞21ページ）。

次のページにつづく ➡

聞きたい曲だけ再生する（ブックマーク再生）

好きな曲にブックマーク（しおり）を付けて、その曲だけを再生できます。ただし、再生する曲順は変えられません。

1 ブックマーク（しおり）を付けたい曲の再生中に、集中コントロールキー（▶II/ENT）を2秒以上押す。

「ブックマーク登録しました」が表示されます。

2 複数の曲にブックマークを付けたいときは、手順1を繰り返す。

3 メニュー（☞38、40ページ）で「メイン再生モード」－「ブックマーク再生」を選び、集中コントロールキー（▶II/ENT）を押す。

4 ジョグダイヤルを回して再生したい曲を選び、集中コントロールキー（▶II/ENT）を押す。

選んだ曲から順に、最後にブックマークされた曲まで再生します。

リモコンで操作するときは

1 ブックマーク（しおり）を付けたい曲の再生中に、ジョグレバー（▶II/ENT）を2秒以上押す。

2 複数の曲にブックマークを付けたいときは、手順**1**を繰り返す。

3 メニュー（☞38、40ページ）で「メイン再生モード」－「ブックマーク再生」を選び、ジョグレバーを押す。

4 ジョグレバー（▶II/ENT）を押す。ブックマークをつけた一番小さい曲番から順に再生が始まります。

ブックマークを消すには

ブックマークを付けた曲の再生中に、集中コントロールキー（▶II/ENT）を2秒以上押します。「ブックマーク登録を削除しました」が表示され、ブックマークが消えます。

選んだ曲の部分を繰り返し再生する（A-Bリピート再生）

1曲の中で選んだ部分を、繰り返し再生できます。1曲の範囲を越えての指定はできません。

1 メニュー（☞38、40ページ）で「サブ再生モード」－「A-Bリピート再生」を選ぶ。

A点（始点）が点滅します。

2 再生中に、繰り返したい部分の始点（A点）で集中コントロールキー（▶II/ENT）を押す。

A点が点灯し、B点（終点）が点滅します。

3 そのまま再生を続けて、繰り返したい部分の終点（B点）で集中コントロールキー（▶II/ENT）を押す。

「A-Bリピート」が表示され、選んだ部分の再生が始まります。

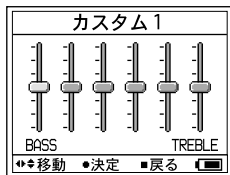
リモコンで操作するときは

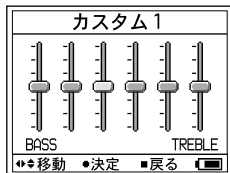
1 P MODE（プレイ モード）/⮌（リピート）を繰り返し押して、「A-Bリピート再生」を選ぶ。

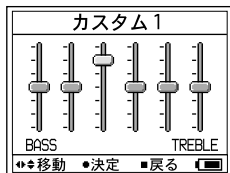
2 再生中に、繰り返したい部分の始点（A点）でジョグレバーを押す。

3 そのまま再生を続けて、繰り返したい部分の終点（B点）でジョグレバーを押す。

好みの音質に細かく設定する（カスタム）

1 **メニュー（☞38、41ページ）で「サウンド」－「6バンドイコライザ」を選んだ後、「カスタム1」または「カスタム2」を選ぶ。**

2 **集中コントロールキーを⏮/⏭側に繰り返し倒して、音域を選ぶ。**

6つの音域があります。

3 **集中コントロールキーを🗀＋/－側に繰り返し倒して、音声レベルを選ぶ。**

7段階の中から選びます。

4 **手順2と3を繰り返して、残りの音域の設定を行う。**

5 **集中コントロールキー（▶II/ENT）を押す。**

リモコンで操作するときは

1 SOUNDを繰り返し押して「SOUND」を表示させる。

2 SOUNDを2秒以上押す。

3 ジョグレバーを⏮/⏭側に繰り返し動かして、「Custom1」または「Custom2」を選び、ジョグレバー（▶II/ENT）を押す。

4 ジョグレバーを⏮/⏭側に繰り返し動かして、音域を選ぶ。

5 VOL＋/－つまみを回して、音域レベルを選ぶ。

6 手順**4**～**5**を繰り返す。

7 ジョグレバー（▶II/ENT）を押す。

ご注意

- 設定によって、音量を大きくしたときに音が歪む場合は、音量を下げてください。
- 「カスタム1」または「カスタム2」を選んだときとそれ以外の音質で音量が変わったように感じる場合は、音量を調節してください。

次のページにつづく ⟶

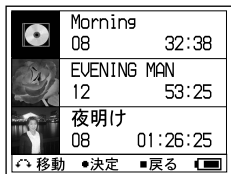
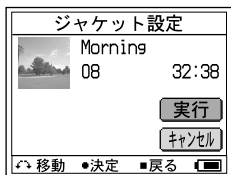
画像を音楽のジャケットに設定する（ジャケット設定）

Hi-MDモード

1 メニュー（☞38、43ページ）で「ジャケット設定」－「設定」を選ぶ。

9枚表示画面が表示されます。

2 ジョグダイヤルを回して設定したい画像を選び、集中コントロールキー（►II/ENT）を押す。

音楽のグループ一覧が表示されます。

3 ジョグダイヤルを回して設定したいグループを選び、集中コントロールキー（►II/ENT）を押す。

4 ジョグダイヤルを回して「実行」を選び、集中コントロールキーを（►II/ENT）を押す。

画像が音楽のジャケットに設定されます。

ジャケット設定を解除するには

メニュー（☞38、43ページ）で「ジャケット設定」－「解除」を選んだ後、設定を解除したいグループを選びます。

ご注意

- ジャケットは、音楽のグループごとに設定されます。SonicStageを使って曲を転送するときは、アルバム単位で転送してください。曲単位で転送すると、グループが作成されないため、本機でジャケット設定できません。
- すでにジャケット設定している音楽に、別の画像をジャケット設定すると、上書きされます。
- 音楽の再生中に、メニューで「ジャケット設定」を「設定」または「解除」を選んで決定すると、音楽が停止します。
- ジャケット設定できる画像は、本機で撮影した画像のみです。
- ディスクにグループがない場合は、ジャケット設定画面は表示されません。

画像を撮るときのメニュー（撮影/各種設定/共通設定）Hi-MDモード

撮影

項目	設定内容（●：お買い上げ時の設定）	
露出補正（Exposure）	＋2.0EV ～－2.0EV	自動的に決定された露出を、撮影者の意図する露出に変更できます。＋2.0EV ～－2.0EVまでの13段階から選べます。お買い上げ時の設定は0.0EVです。
ホワイトバランス（White Balance）	自動 ●（Auto）	撮影状況に合わせて自動的に設定され、全体の色のバランスが調整されます。
	（晴天）	戸外で撮影する場合や夜景やネオン、花火や日の出、日没前後などを撮影する場合に効果的です。
	（曇り）	くもり空のときに撮影する場合に効果的です。
	（蛍光灯）	蛍光灯の下で撮影する場合に効果的です。
	（白熱灯）	白熱灯の下で撮影する場合に効果的です。
連写（Burst）	切 ●（Off）	通常の撮影です。
	入（On）	シャッターを1回押すと、4枚連続して撮影します。
ナイトモード（Night Mode）	切 ●（Off）	通常の撮影です。
	入（On）	夜景の撮影時に設定します。人物などの被写体と、背景の夜景を美しく撮影できます。
サイズ・画質（Size・Quality）	1.3Mファイン ●（1.3M Fine）	画像サイズ（画素数）は1280×960、画質（圧縮率）は「ファイン」（高画質）で撮影します。
	1.3Mスタンダード（1.3M Standard）	画像サイズ（画素数）は1280×960、画質（圧縮率）は「スタンダード」（標準）で撮影します。
	VGAファイン（VGA Fine）	画像サイズ（画素数）は640×480、画質（圧縮率）は「ファイン」（高画質）で撮影します。
	VGAスタンダード（VGA Standard）	画像サイズ（画素数）は640×480、画質（圧縮率）は「スタンダード」（標準）で撮影します。

ご注意

ジャケット撮影モードでは、連写とサイズ・画質は設定できません。画像サイズ（画素数）は200×200、画質（圧縮率）は「ファイン」になります。

次のページにつづく →

画像サイズと画質について

撮影目的に合わせて、画像サイズ（画素数）と画質（圧縮率）を選べます。
画像サイズを大きく、画質を高くするほど、画質はきれいになります。その反面、データ容量は大きくなり、ディスクに記録できる枚数が少なくなります。

ディスク1枚に記録できる枚数[1)]

サイズ・画質[2)]	Hi-MD 規格専用 1GB ディスク	80 分ディスク	74 分ディスク	60 分ディスク
1.3Mファイン	約1,200枚	約360枚	約340枚	約270枚
1.3Mスタンダード	約2,300枚	約700枚	約640枚	約520枚
VGAファイン	約4,200枚	約1,200枚	約1,100枚	約960枚
VGAスタンダード	約7,200枚	約2,100枚	約2,000枚	約1,600枚
ジャケット画像	約24,000枚	約7,200枚	約6,700枚	約5,400枚

1）記録できる枚数は、お買い上げ後、初めて本機にブランクディスクを入れたときのおおよその枚数です。撮影状況によって、数値と異なる場合があります。また一度本機で撮影した後にブランクディスクを入れた場合は、撮影番号を記憶するため、枚数が少なくなります。

2）画像サイズは、パソコンで見るときのサイズです。本機の画面で見るときは、どの画像サイズでも同じ大きさに見えます。

各種設定

項目	設定内容（●：お買い上げ時の設定）	
新フォルダ作成（New Folder）	実行（OK）	画像を保存するフォルダを新規に作成します。既存最大番号+1のフォルダが作成されます。次に撮る画像は、新しく作成したフォルダに保存されます。
	キャンセル（Cancel）	操作を途中でやめます。
シャッター音（Shutter Beep）	切（Off）	ビープ音は鳴りません。
	入 ●（On）	セルフタイマーを実行したとき、AE/AF機能が働いたとき、および画像を撮るときに、ビープ音が鳴ります。
ディスク初期化（Format）	実行（OK）	ディスクに保存されているすべてのファイル（音楽ファイルを含む）を削除し、撮影用フォルダを作成します（Hi-MDモードのディスクになります）。
	キャンセル（Cancel）	操作を途中でやめます。
フリッカー低減（Flicker）	50 Hz ●	蛍光灯などの照明の下で撮影するときの画像劣化を防ぎます。お住まいの地域の周波数が50Hzの場合に、設定します。
	60 Hz	蛍光灯などの照明の下で撮影するときの画像劣化を防ぎます。お住まいの地域の周波数が60Hzの場合に、設定します。

ご注意

- 新しくフォルダを作成していない場合は、「DCIM」フォルダ内に「101_HIMD」フォルダが保存フォルダとして設定され、最高で「999_HIMD」まで作成できます。
- 1つのフォルダに保存できるのは最大1,000枚です。フォルダ容量を越えると、自動的に新しいフォルダが作成されます。
- 撮影した画像は、一番新しく作成されたフォルダに保存されます。保存するフォルダは選べません。
- 保存した画像は、本機では別のフォルダに移動できません。
- 一度作成したフォルダを、本機では削除できません。
- 一番新しく作成されたフォルダに、画像が保存されていない場合は、さらに新しくフォルダを作成できません。

共通設定

項目	設定内容（●：お買い上げ時の設定）	
スライドショー（Slide Show）	通常再生 ●（Normal）	本機で撮った画像を、順番に表示します。
	シャッフル再生（Shuffle）	本機で撮った画像を、順不同に表示します。
表示言語（Language）	日本語 ●	本体の液晶画面に表示されるメニュー項目/メッセージとリモコンの表示窓に表示されるメニュー項目を日本語で表示します。
	English	本体の液晶画面に表示されるメニュー項目/メッセージとリモコンの表示窓に表示されるメニュー項目を英語で表示します。
時計設定（Clock Set）		時計を設定します（☞21ページ）。

画像を見るときのメニュー（画像閲覧/共通設定）Hi-MDモード

画像閲覧

項目	設定内容（●：お買い上げ時の設定）	
画像ファイル削除（Delete）	1枚削除（1File Delete）	表示している画像を削除します。
	全ファイル削除（All Delete）	本機で撮ったすべての画像を削除します。
JPEGビューワー（JPEG Viewer）		パソコンにある画像をディスクに保存し、本機で見ることができます（☞51ページ）。
ディスク初期化（Format）	実行（OK）	ディスクに保存されているすべてのファイル（音楽ファイルを含む）を削除し、撮影用フォルダを作成します（Hi-MDモードのディスクになります）。
	キャンセル（Cancel）	初期化を途中でやめます。

ご注意

- 「全ファイル削除」を選んで画像ファイルを削除するときに、ディスクに入っている画像数やフォルダ数が多い場合は、削除に時間がかかることがあります。
- 画像ファイルを削除しても、音楽のグループに設定したジャケットは消えません。

共通設定

項目	設定内容（●：お買い上げ時の設定）	
ジャケット設定（CoverArt Link）		本機で撮った画像を、音楽のグループにジャケット設定します（☞46ページ）。
スライドショー（Slide Show）	通常再生 ●（Normal）	本機で撮った画像を、順番に表示します。
	シャッフル再生（Shuffle）	本機で撮った画像を、順不同に表示します。
表示言語（Language）	日本語 ●	本体の液晶画面に表示されるメニュー項目/メッセージとリモコンの表示窓に表示されるメニュー項目を日本語で表示します。
	English	本体の液晶画面に表示されるメニュー項目/メッセージとリモコンの表示窓に表示されるメニュー項目を英語で表示します。
時計設定（Clock Set）		時計を設定します（☞21ページ）。

JPEGの画像を見る（JPEGビューワー）

パソコンにある画像ファイルをディスクに保存し、本機で見ることができます。保存の方法は、☞56ページをご覧ください。
本機で見ることができる画像ファイルは、下記です。
－ファイル形式：JPEG*
－拡張子：「.jpg」
－最大ファイルサイズ：7000kB以下
－最大画枠サイズ：4080×4080ピクセル
－最小画枠サイズ：16×16ピクセル
－画枠構成最小単位：8×8ピクセル
パソコン上で加工された画像ファイルの表示は保証できません。またプログレッシブJPEGは表示できません。

* Design rule for Camera File system（DCF）準拠

1 **メニュー（☞38、50ページ）で、「JPEGビューワー」を選ぶ。**

2 **ジョグダイヤルを回して、表示したいフォルダ/画像ファイルを選んで、集中コントロールキー（►II/ENT）を押す。**

前後の画像を見るには

集中コントロールキーを I◄◄ または ►►I 側に倒します。

ご注意

- フォルダが16階層以上ある場合、本機では見ることができません。
- 本機では、画像ファイルを削除できません。
- ファイル名が長い場合は、8文字以下に省略して表示されます。
- フォルダ名やファイル名が漢字、かな、カタカナなどの全角の場合、正しく表示できない場合があります。

パソコンに接続する

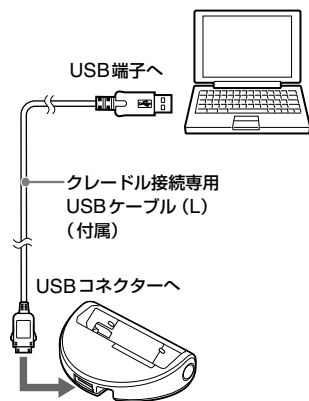
本機とパソコンを接続すると、パソコンのUSBポートから電源が供給され、本体の電池を消耗させることなく使えます（バスパワー接続）。

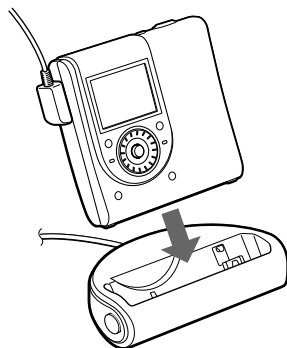
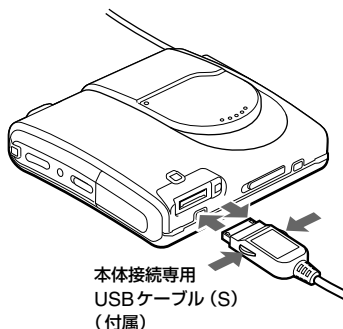
ご注意

- MDモードで録音された曲が入っているディスクを使う場合は、パソコンに接続する前に、必ず付属のCD-ROMを使ってソフトウェアをインストールしてください（☞別冊「パソコンから音楽を転送しよう！」）。
- **Windows ME/98SEを使っている場合**
  本機のディスクモードが「Hi-MD」に設定されている状態（お買い上げ時の設定）でパソコンに接続し、60/74/80分のディスクを入れると、何も録音/記録しなくてもHi-MDモードのディスクになることがあります。
- **Windows ME/98SEを使っている場合**
  専用USBケーブルを抜いたとき、パソコンに「デバイス取り外しの警告」というメッセージが表示されますが、問題ありません。「OK」をクリックして表示を消してください。

1 本体にディスクを入れる。

2 USBクレードルをパソコンに接続する。

クレードル接続専用USBケーブル（L/長いケーブル）（付属）の、大きい端子をパソコンのUSB端子に、小さい端子をUSBクレードルに差し込みます。

3 本体をUSBクレードルにのせ、押しながらはめ込む。

OPRランプがオレンジ色に点灯します。リモコンを接続している場合は、リモコンの表示窓に「PC--MD」と表示されます。

USBクレードルを使わずに、直接本体と本体接続専用USBケーブル（S/短いケーブル）（付属）をつないで使うこともできます。

本体接続専用
USBケーブル（S）
（付属）

ご注意

クレードルを使ってパソコンに接続するときは、クレードル接続専用USBケーブル（L/長いケーブル）を、本体に直接接続するときは、本体接続専用USBケーブル（S/短いケーブル）を使ってください。情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づき、周囲の機器への障害を防ぐためです。

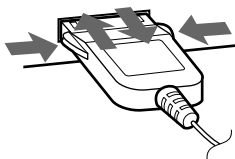
USBクレードルや本体から、専用USBケーブルを抜くには

1 OPRランプが高速で点滅していないことを確認する。

2 本体またはリモコンの■を押す。

再度、OPRランプが高速で点滅していないことを確認してください。
リモコンの表示窓に「EJECT OK!」と表示されます。表示されるまでに、時間がかかることがあります。

3 専用USBケーブルを抜く。

プラグの両側にあるボタンを押しながら、プラグを奥へ1度押し付けて、手前に引き抜いてください。

USBクレードルから本体を取り外すには

1 「専用USBケーブルを抜くには」（上記）の手順**1**、**2**を行う。

2 USBクレードルのRELEASEを押して本体を取り外す（☞19ページ）。

ディスクを取り出すには

1 「専用USBケーブルを抜くには」（上記）の手順**1**、**2**を行う。

2 ディスクを取り出す。

次のページにつづく ➡

ご注意

- パソコンと接続しているときは、本体の液晶画面には何も表示されません。
- OPRランプが高速で点滅しているときは、専用USBケーブルを抜かないでください。故障や誤動作の原因になります。
- パソコンに接続して使うときは、停電や専用USBケーブルが抜けてしまうなど、不慮の事故に備えて充分に充電した充電池を入れておくことをおすすめします。不慮の場合の不具合や、音楽データの転送の失敗、音楽データの破壊などについては保証いたしませんのでご注意ください。
- 本体から専用USBケーブルを抜いた後に再び接続するときは、2秒以上経過してから接続してください。
- 振動のない安定した場所で使ってください。
- 本機の動作中は、パソコンに認識されません。
- パソコンと接続中に、パソコンでシステムサスペンド、スリープ（スタンバイ状態）、システムハイバネーション（休止状態）のモードへ移行すると、不具合が生じることがあります。自動的に移行する設定は避けてください。
- USBハブを介して、本機とパソコンを接続しないでください。
- バスパワー接続で使っているときは、本体の充電池は充電できません。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作保障をするものではありません。

本機で撮った画像をパソコンに保存する

Hi-MDモード

本機で撮った画像は、ディスク内のフォルダにまとめられています。

Windows XPで見たときの例

デスクトップ
- マイ ドキュメント
- マイ コンピュータ
  - 3.5 インチ FD (A:)
  - IBM_PRELOAD (C:)
  - DVD/CD-RW ドライブ (D:)
  - ローカル ディスク (F:)
  - ローカル ディスク (G:)
  - ローカル ディスク (H:)
  - リムーバブル ディスク (I:)
    - DCIM
      - 101_HIMD ― 本機で撮った画像のフォルダ

お使いのOSによって、パソコンに保存する手順は異なります。

Windows 98SE/2000/Meの場合

1 **Hi-MDモードでお使いのディスクを本機に入れ、パソコンに接続する（☞52ページ）。**

2 **パソコン画面上の［マイコンピュータ］をダブルクリックする。**

「マイコンピュータ」画面が表示されます。

3 ［リムーバブルディスク］をダブルクリックする。

本機に入れたディスクの内容が表示されます。

4 ［DCIM］をダブルクリックする。

5 保存したい画像ファイルの入っているフォルダをダブルクリックする。

6 画像ファイルを［マイドキュメント］フォルダにドラッグ＆ドロップする。

「マイドキュメント」フォルダに、画像ファイルがコピーされます。

ご注意

同じファイル名の画像ファイルをパソコンの同じフォルダにコピーすると、元の画像ファイルを上書きしてもよいかを確認するメッセージが表示されます。上書きするときは［はい］をクリックしてください。この場合、元の画像ファイルは消去されます。上書きしないときは［いいえ］をクリックして、ファイル名を変更してください。

［リムーバブルディスク］が表示されないときは

1 ［マイコンピュータ］を右クリックしてメニューを表示し、［プロパティ］をクリックする。

システムのプロパティ画面が表示されます。

2 ［デバイスマネージャ］－［その他のデバイス］を選び、マークの付いた「Sony DSC」または「Sony Handycam」がないか確認する。

3 手順**2**で「Sony DSC」または「Sony Handycam」が表示されている場合は、アイコンをクリックして［削除］を選び、デバイスを削除する。

4 デバイスを削除した後、付属のCD-ROMのUSBドライバをインストールし直す。

Windows XPの場合

パソコンの設定によって、パソコンに保存する手順は異なります。

1 Hi-MDモードでお使いのディスクを本機に入れ、パソコンに接続する（☞52ページ）。

パソコン画面上にコピーウィザードが表示されます。

2 コピーウィザード画面で［コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする。Microsoftスキャナとカメラウィザード使用］をクリックし、［OK］をクリックする。

「スキャナとカメラのウィザードの開始」画面が表示されます。

3 ［次へ］をクリックする。

本機に入れたディスクの内容が表示されます。

4 パソコンにコピーしない画像ファイルの☑をクリックして□にし、［次へ］をクリックする。

「画像の名前とコピー先」画面が表示されます。

次のページにつづく

5 **画像ファイルの名前とコピー先を指定し、[次へ] をクリックする。**

画像ファイルのコピーが始まります。コピーが終了すると、「その他のオプション」画面が表示されます。画像ファイルのコピー先は、「マイドキュメント」にしてください。

6 **[作業を終了する] を選び、[次へ] をクリックする。**

「スキャナとカメラのウィザードの完了」画面が表示されます。

7 **[完了] をクリックする。**

ウィザード画面が閉じます。続けて画像ファイルをコピーしたい場合は、USBケーブルを一度抜き差しして、手順**1**から行ってください。

パソコンにある画像や書類などをディスクに保存する Hi-MDモード

Hi-MDモードのディスクが入っている状態で本機をパソコンに接続すると、Windowsで外付けの記憶媒体として認識されます。音楽データ以外のデータ（テキストデータや画像ファイルなど）をディスクに保存できます。
各ディスクの容量について詳しくは、
☞57ページをご覧ください。

1 **Hi-MDモードでお使いのディスクを本機に入れ、パソコンに接続する（☞52ページ）。**

Windowsのエクスプローラ上で、外部機器として認識されます。他のデバイスと同じようにお使いください。

ご注意

- SonicStageソフトウェアが起動しているときは、外部機器として認識されません。
- パソコンでディスクをフォーマット（初期化）するときは、必ずSonicStageソフトウェア上でフォーマットしてください。
- エクスプローラ上で、ファイル管理フォルダ（HMDHIFIフォルダ、HI-MD.INDファイル、THUMBxxx.DATファイル）を削除しないでください。
- DCIMフォルダに他のフォルダを作成すると、本機で撮影できる画像の枚数が減ることがあります。

ディスク容量について

ディスクの種類によって、容量は異なります。本体で初期化した場合の容量です。

	Hi-MD 規格専用 1GB ディスク	80 分ディスク	74 分ディスク	60 分ディスク
総容量	964MB	291MB	270MB	219MB
ディスク管理容量*	1.65MB	1.65MB	1.65MB	1.65MB
空き容量	963MB	290MB	268MB	217MB

* ディスク内のファイルを管理している領域の容量です。使用条件などによって変化するため、エクスプローラ上で表示される空き容量に対して、実際に使用できる空き容量が減少することがあります。

故障かな？と思ったら

本機をご使用中にトラブルが発生した場合は、サービス窓口にご相談になる前に、もう一度下記の流れにしたがってチェックしてください。メッセージ一覧（☞63ページ）も合わせてご覧ください。メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

1 この「故障かな？と思ったら」をチェックし、該当する項目を調べる。
本書の手順の中や「メッセージ一覧」にも、様々な情報があります。該当する項目を調べてください。

2 「パーソナルオーディオ・カスタマーサポート」のホームページ
http://www.sony.co.jp/support-pa/ で調べる。
最新サポート情報や、よくあるお問い合わせとその回答を掲載しています。

3 それでもトラブルが解決しないときは、お客様ご相談センター（裏表紙）またはお買い上げ店に相談する。

充電する

症状	原因 / 処置
充電ができない、または充分に充電ができない。	➔ 充電池を正しく入れていない、またはACパワーアダプターを正しく接続していない。充電池を正しく入れ直す、またはACパワーアダプターを正しく接続する。 ➔ 充電池が入っていない。充電池を入れる（☞18ページ）。 ➔ お買い上げ時や長い間使わなかった場合は、電池の特性により持続時間が短いことがある。何回か充放電を繰り返すと、充分に充電されるようになる。 ➔ 充電池が消耗しきっている。充電する。1分程しても充電が始まらないときは、もう一度本体をUSBクレードルに置き直す。 ➔ 充電している場所の温度が低すぎる、または高すぎる（「＋5℃～＋35℃内で充電してください」が表示される）。充電は＋5℃～＋35℃の場所で行う。
使っていなかったのに充電池が消耗した。	➔ 「クイックモード」の設定が「入」になっていた（☞42ページ）。「クイックモード」の設定が「入」の場合、画面に何も表示されていないときでも、本体内部では常に電源が入っている状態になっているため、電池の持続時間が短くなる。充電が充分ではない状態でかつ、設定が「入」になっていると、使わない間に充電池が消耗しまうことがある。
充分に充電しても、通常の半分程の時間しか使えない。	➔ 電池が寿命の場合がある。新しい充電池と交換する。

症状	原因 / 処置
充電中に本体やUSBクレードルが熱くなる。	→ 故障ではありません。
電源が途中で切れる。	→ 操作しない状態が3分以上続くと、電池の消耗を防ぐため、自動的に電源がきれる（オートパワーオフ機能）。電源を入れ直す。

音楽を聞く

症状	原因 / 処置
通常の再生ができない。	→ 「リピート」の設定が「入」になっている。「切」にする（☞40ページ）。 → 再生モードを変えた。「メイン再生モード」や「サブ再生モード」を、「通常再生」に戻してから再生を始める（☞40ページ）。
ディスクの1曲目から再生が始まらない。	→ 前回再生したとき、ディスクの途中で止めた。一度停止させ、集中コントロールキー（▶II/ENT）を2秒以上押したままにする（☞24ページ）。
再生中に音がとぎれる。	→ 振動の多い場所に置いている。振動の少ない場所で使う。
雑音が多い。	→ テレビなど強い磁気を帯びたものの近くに置いている。テレビなどから離れた場所で使う。
音が大きくならない。	→ 「AVLS」の設定が「入」になっている。「切」にする（☞42ページ）。
ヘッドホンから音が出ない。	→ リモコン付きヘッドホンがしっかり差し込まれていない。本体にヘッドホンプラグをしっかり差し込む。 → プラグが汚れている。ヘッドホンとリモコンのプラグ部分を、乾いた布などで拭く。
他の機器でディスクを再生できない。	→ Hi-MDに対応していない機器で再生しようとした。Hi-MDモードのディスクは、Hi-MD対応の機器でのみ再生できる。
編集した曲を再生しながら早送り、早戻しすると、音がとぎれる。	→ システム上の制約で、再生しながら早送り、早戻しするときは通常より高速で再生するため、音がとぎれることがある。
グループ機能が働かない。	→ グループ設定されていないディスクが入っている。グループ設定されているディスクを入れる。
本体の液晶画面が消灯している。	→ 約30秒間操作をしないと、電池の消耗を防ぐため、自動的に消灯する。再度液晶画面を表示させるには、DISPLAYを押す。
MP3の曲を再生できない。	→ 本機で再生できるMP3は、SonicStageを使って転送したMPEG-1 Audio Layer-3で、サンプリング周波数が44.1kHzの曲のみです。
曲の録音年月日が表示されない。	→ 録音年月日が記録されている場合に、表示されます。パソコンから転送した曲の場合、録音年月日は付属のソフトウェアで曲情報が持っている年月日が表示されます。ただし、年月日が1979年以前の場合は、本機では表示されません。

次のページにつづく ➡

画像を撮る/見る

症状	原因 / 処置
画面に被写体が写らない。	→ 閲覧モードになっている。[カメラ] / [▶] を押して、撮影モードにする。
フォーカスが合わない。	→ 被写体が近すぎる。最短撮影距離（通常撮影時は約50cm、マクロ撮影時は約10cm）よりもカメラを離して撮影する。
撮影できない。	→ ディスクが入っていない。ディスクを入れる。 → ディスクの容量がない。ディスク内の画像を削除する、ディスクを初期化（フォーマット）する（☞50ページ）、またはディスクを交換する。 → MDモードのディスクが入っている。Hi-MDモードのディスクを入れる。
フラッシュ撮影ができない。	→ フラッシュモードの設定が[発光禁止マーク]（発光禁止）になっている。表示なし（オート）または[フラッシュマーク]（強制発光）にする（☞35ページ）。
正しい撮影日時が記録されない。	→ 日付、時刻が合っていない。日付、時刻を合わせる（☞21ページ）。
画像を見ることができない。	→ パソコンのハードディスクにコピーした画像ファイルで、名前や画像サイズを変更したり、画像を加工したものは、本機で見ることができない場合があります。
全削除してもディスクが空にならない。	→ パソコンで名前や保存先を変更した画像ファイルが入っている。ディスクを初期化（フォーマット）する（☞50ページ）。
誤って消してしまった。	→ 一度削除した画像は、元に戻せません。

パソコンとつないで使う

症状	原因 / 処置
本機がパソコンに認識されない。	→ 専用USBケーブルがきちんと接続されていない。きちんと接続し直す。 → USBハブを使用している。パソコンのUSB端子に直接接続する。 → 通信に失敗している。専用USBケーブルを抜き、2秒以上経過してからもう一度接続する。それでも認識されない場合は、接続をはずし、パソコンを再起動させてから接続し直す。
正常に動作しない。	→ USBハブを使用している。パソコンのUSB端子に直接接続する。 → 振動のある場所で使っている。振動のない、安定した場所で使う。
音楽データ以外のデータを保存できない。	→ SonicStageまたはMD Simple Burnerソフトウェアが起動している。SonicStageまたはMD Simple Burnerソフトウェアを終了してから、操作する。
パソコンから転送した曲の演奏時間が、パソコン上の演奏時間と一致しない。	→ 本体とパソコンの計算誤差のため、演奏時間が一致しない。
ディスクの録音可能時間いっぱいに音楽データを転送できない。（例：80分ディスクに対してLP2ステレオ録音で160分転送できない。）	→ システム上の制約で、録音は何秒かの単位でされるため、短い曲をたくさん録音すると、録音部分が増えて合計時間と合わなくなる。
パソコンで表示されるディスクの容量と、ディスクに表示されている容量に差がある。	→ ディスク容量（☞57ページ）は、パソコン上では2進法で表現されるが、ディスクなどの記録媒体では10進法で表現されるため、差が生じる。
本体の操作ができない。	→ パソコンと接続しているときは、本体を操作できない。
DOWNLOADを押しても録音できない。	→ パソコンと接続されていない。専用USBケーブルで接続する。 → パソコンのCDドライブに音楽CDが入っていない。音楽CDを入れる。 → ディスクに録音できる容量が足りない。他のディスクと取り換える。
ふたが開かない。	→ 本体に充電池が入っていない状態、または充電池が消耗している状態で、パソコンからの転送/録音/編集中に専用USBケーブルをはずした。専用USBケーブルをつなぐ、または充電した電池を入れ、■を押す。
画像ファイルをコピーできない。	→ 本機とパソコンを正しく接続し直す（☞52ページ）。 → お使いのOSに対応した手順で、コピーする（☞54ページ）。

次のページにつづく ➡

その他

症状	原因 / 処置
操作を受けつけない、または正しく動作しない。	➔ 充電池を充電していない。充電する。 ➔ 音量が小さくなっている。音量を上げる。 ➔ ディスクが入っていない。ディスクを入れる。 ➔ HOLD機能が働いている。HOLDスイッチを矢印と反対の方向にずらして、HOLD機能を解除する（☞17ページ）。 ➔ ふたがしっかりと閉まっていない。カチッと音がするまでふたを閉める。 ➔ 結露（本機を寒い屋外から暖かい室内に持ち込んだ直後などに、内部に水滴が付着）している（☞69ページ）。ディスクを取り出して、そのまま数時間おく。 ➔ ACパワーアダプターがしっかり差し込まれていない。DC IN 6Vジャックとコンセントにしっかり差し込む。 ➔ 電池が消耗している（「電池残量がありません」表示が点滅または何も表示されない）。充電する（☞18ページ）。またはACパワーアダプターを接続する。 ➔ 損傷しているディスク、または録音や編集の内容などの情報が正しく入力されていないディスクが入っている。ディスクを入れ直したり、録音し直す。それでもエラー表示が出るときは、他のディスクと取り換える。 ➔ 内部システムが誤動作している。または、使用中、衝撃や過大な静電気、落雷による電源電圧の異常などのために強いノイズを受けている。すべての電源をはずし、専用USBケーブルを抜く。約30秒間経過してから、電源を接続する。
画面表示が通常の表示と違う。	➔ 電源を抜いた。しばらく放置する。または電源を入れて、いずれかの操作ボタンを押す。
ACパワーアダプターでお使いのとき、動作していないのにリモコンの表示窓がかすかに光っている。	➔ 約80％充電が完了した後、100％充電になるまでは光っている（☞19ページ）。

メッセージ一覧

表示（日本語）	表示（英語）	原因 / 処置
アーティスト名が入力されていません	NO NAME	→ アーティスト名がついている曲が入っていないディスクで、「メイン再生モード」を「アーティスト再生」にした。
アルバム名が入力されていません	NO TITLE	→ アーティスト名がついている曲が入っていないディスクで、「メイン再生モード」を「アーティスト再生」にした。
音楽再生専用ディスクです	AUDIO DISC FOR PLAYBACK ONLY	→ 音楽再生専用のディスクで、撮影をしようとした。
画像ファイルが記録されていません	NO IMAGE	→ 画像が保存されていないディスクで、画像を見ようとした。
クイックレビューできる画像はありません	NO QUICK REVIEW IMAGE	→ 電源を切ると、最後に撮った画像をクイックレビューで見ることができない。
グループがありません	NO GROUP	→ グループ名がついている曲が入っていないディスクで、ジャケットの設定をしようとした。
これ以降の曲はありません	END	→ 再生中、または集中コントロールキーを ▶▶▎側へ倒しているとき（リモコンではジョグレバーを ▶▶▎側に動かしているとき）に、ディスクの最後まで到達した。
これ以上展開できません	FOLDER NO EXPAND	→ JPEGビューワーでフォルダが16階層以上ある場合、本機で見ることができない。
再生できないトラックです	CANNOT PLAY	→ 再生できる音楽データが入っていない。音楽データまたは管理ファイルが壊れている。他のディスクと取り換える。本機では再生できないMP3の曲を再生しようとしている。本機で再生できるMP3は、SonicStageを使って転送したMPEG-1 Audio Layer-3で、サンプリング周波数が44.1kHzの曲のみです。
システムファイルの書込み中です	SYSTEM FILE WRITING	→ システムファイルを書き込んでいる。しばらく待つ（☞30ページ）。
しばらくお待ち下さい	BUSY WAIT A MOMENT	→ ディスクの情報を読んでいる。録音または編集の内容の処理をしている。しばらく待つ。1分ほどかかる場合がある。
ジャケットが設定されていません	NO COVER ART	→ ジャケット設定されていないアルバムで、ジャケット設定を解除しようとした。

次のページにつづく ➡

表示（日本語）	表示（英語）	原因 / 処置
使用できない ディスクです	FORMAT ERROR DISC	→ 本機が対応していないフォーマットのディスクが挿入された。MDまたはHi-MDフォーマットのディスクを入れる。 → パソコンでフォーマットされたディスクが挿入された。パソコンでフォーマットするときは必ずSonicStageを使ってフォーマットする。
ディスクが入って いません	NO DISC	→ ディスクが入っていない。ディスクを入れる。
ディスクが 誤消去防止 状態です	PROTECTED DISC	→ ディスクが誤消去防止状態になっている。誤消去防止つまみを戻す（☞67ページ）。
ディスク容量が いっぱいです	DISC FULL	→ ディスクの空き容量がないのに、画像を撮ろうとした。
データの 復旧作業中 です	RECOVERING DATA	→ 画像を撮った後、システムファイルの書き込みが完了していないときに、電源を切った。しばらく待つ。
電池残量が ありません	LOW BATTERY	→ 電池が消耗した。充電池を充電し直す（☞18ページ）。
何も録音され ていません	NO TRACK	→ 何も録音されていないディスクを再生しようとした。録音済みのディスクを入れる。
フォルダ制限数を 越えています	FOLDER FULL	→ フォルダ制限を越えて登録しようとした。
ブランクディスクです	BLANKDISC	→ 何も録音、保存されていないディスクが入っている。
ブックマークされ ている曲が ありません	NO BOOKMARKED TRACK	→ ブックマーク登録している曲が入っていないディスクで、「メイン再生モード」を「ブックマーク再生」にした。
プロテクトされた ファイルは編集 できません	PROTECTED IMAGE NO EDIT	→ 保護された画像ファイルを削除しようとした。
メモリーされて いない ディスクです	NO DISC MEMORY	→ ディスクメモリーを登録していないディスクで、ディスクメモリーを削除しようとした。
読み込み エラーです	READ ERROR	→ ディスクの情報を正しく読み取れなかった。ディスクを入れ直す。
レンズカバーを 開けて下さい	OPEN LENS COVER	→ レンズカバーが閉じた状態で、📷/▶を押した。レンズカバーを開ける。
レンズカバーを閉じて 下さい	CLOSE LENS COVER	→ 画像を撮った後、システムファイルの書き込みが完了していないときに、ディスクを取り出した。📷/▶を押す。
録音・再生が できない ディスクです	AUDIO FILE ERROR	→ 再生できる音楽データが入っていない。音楽データまたは管理ファイルが壊れている。他のディスクと取り換える。

表示（日本語）	表示（英語）	原因 / 処置
AVLS ON 音量を上げ られません	AVLS ON NO VOLUME OPERATION	➔ 「AVLS」の設定が「入」になっているので、これ以上音量をあげられない（☞42ページ）。「切」にする。
DC INの電圧 が高過ぎます	DC IN TOO HIGH	➔ 電源電圧が高い（指定のACパワーアダプターを使っていない）。指定のACパワーアダプターを使う。
Hi-MDディスクで はありません	NOT Hi-MD DISC	➔ MDモードのディスクで、画像を撮ろうとした。Hi-MDモードのディスクを入れる。
HOLDを 解除して 下さい	HOLD	➔ HOLD機能が働いている。HOLDスイッチを矢印と反対の方向にずらして、HOLD機能を解除する（☞17ページ）。
JPEGファイルは ありません	NO JPEG FILE	➔ 「JPEGビューワー」で、JPEGファイルの入っていないフォルダを選択した。
TOCデータに 異常が あります	TOC DATA ERROR	➔ ディスク情報を正しく読み取れなかった。他のディスクと取り換える。
＋5℃〜＋35℃ 内で充電して ください	CHARGE ＋5℃〜＋35℃ 41F-95F	➔ 指定温度ではないところで充電しようとした。指定温度の範囲内（＋5℃〜＋35℃）で充電する。

使用上のご注意

分解しないでください

ミニディスクプレーヤーに使われているレーザーが目にあたると危険です。

光学ピックアップのレンズに触れないでください

ディスクを読み取るレンズが汚れると、音飛びが起きたり、再生できなくなったりする場合があります。また、ほこりがつかないように、ディスクの出し入れ以外はふたを必ず閉じておいてください。

ACパワーアダプター（付属のUSBクレードル専用）について

- この製品には、付属のACパワーアダプター（極性統一形プラグ・JEITA規格）をご使用ください。上記以外の製品を使用すると、故障の原因になることがあります。

極性統一形プラグ

- ACパワーアダプターは容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。
- ACパワーアダプターをご使用時は、以下の点にご注意ください。
  - 本機を棚や組み込み式キャビネットなどの狭い場所に置かないでください。
  - 火災や感電の危険をさけるために、水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機の上に花瓶など、水の入ったものを置かないでください。

日本国内での充電池の廃棄について

リチウムイオン電池はリサイクルできます。不要になったリチウムイオン電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってリサイクル協力店へお持ちください。

Li-ion

充電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店に関するお問い合わせ先については、有限中間法人 http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照してください。

取り扱いについて

- 落としたり、強いショックを与えたりしないでください。誤作動したり、記録できなくなるだけでなく、ディスクが使えなくなったり、保存済みのデータが壊れることがあり、故障の原因になります。
- リモコンやヘッドホンのコードを強く引っぱらないでください。
- 次のような場所には置かないでください。
  - 温度が非常に高いところ（60℃以上）
  - 直射日光のあたる場所や暖房器具の近く
  - 窓を閉めきった自動車内（特に夏期）
  - 風呂場など湿気の多いところ
  - 磁石、スピーカー、テレビなど磁気を帯びたものの近く
  - ほこりの多いところ
- 温度が高いところ（40℃以上）や低いところ（0℃以下）では液晶表示が見にくくなったり、表示の変わりかたがゆっくりになることがあります。常温に戻れば元に戻ります。
- 雨の日などに屋外で撮影するときは、本機を濡らさないようにご注意ください。
- 海岸やほこりの多い場所で使ったあとは、本機をよく清掃してください。潮風で金属が腐食したり、砂ぼこりが内部に入ったりすると故障の原因になります。
- キャリングポーチには、本体と一緒に硬いものを入れないでください。塗装がはがれたり、傷の原因になります。

- 読み込み中や書き込み中にディスクを抜いたり、専用USBケーブルを抜いたりしないでください。正常に録音されなかったり、録音した音楽データが失われることがあります。
- 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合、正常に録音されなかったり、録音した音楽データが失われることがあります。

温度上昇について

充電中および長時間お使いになったときに、本体の温度が上昇することがありますが、故障ではありません。

動作音について

本機は省電力の動作方式になっています。そのため、動作中は断続的に動作音がしますが、故障ではありません。

充電について

- 充電には必ず、付属のACパワーアダプターをお使いください。
- 充電中は、USBクレードルや本体が熱くなりますが、危険はありません。
- 充分に充電しても使える時間が通常の半分くらいになったときは、新しい充電池と交換してください。
- 長い間お使いにならないときはACパワーアダプターをコンセントから抜き、本体をUSBクレードルからはずしてください。さらに、充電池を取り外して湿度の低い涼しい場所で保管してください。保管する際は、充電池の劣化を防ぐため、充電池を使い切った状態や、100%充電の状態で保管しないでください。

ディスクの取り扱いについて

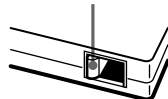
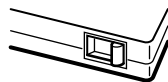
- ミニディスク自体はカートリッジに収納され、ゴミや指紋を気にせず手軽に扱えるようになっています。ただし、カートリッジのよごれや反りなどが誤動作の原因になることもあります。いつまでも美しい音で楽しめるように次のことにご注意ください。
  －シャッターを手で開けない
  無理に開けるとこわれます。

  －持ち運ぶときや保管するときはケースに入れる
  －置き場所について
  直射日光があたるところなど温度の高いところや湿度の高いところには置かないでください。また、砂浜など、ディスクに砂が入る可能性があるところには放置しないでください。
  －定期的にお手入れを
  カートリッジ表面についたほこりやゴミを、乾いた布でふきとってください。
- ディスクに付属のラベルは所定以外の位置に貼らないでください。必ず、ラベル用のくぼみに合わせてしっかり貼ってください。

誤消去防止つまみについて

録音・撮影したものを誤って消さないために、誤消去防止つまみをずらして穴が開いた状態にします。つまみをずらして穴が開いた状態にすると、録音・撮影ができません。録音・撮影するときはつまみを閉めます。

次のページにつづく

その他

万一故障した場合は、内部を開けずに、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。（ディスクが本体に入っているときに故障した場合は、故障原因の早期解決のため、ディスクを入れたままご相談されることをおすすめします。）

ヘッドホンについて

- 付属のヘッドホンをご使用中、肌に合わないと感じたときは早めに使用を中止して医師またはお客様ご相談センターに相談してください。
- 付属のヘッドホンは、音量を上げすぎると音が外にもれます。音量を上げすぎてまわりの人に迷惑にならないように気をつけましょう。
  雑音の多いところでは音量を上げてしまいがちですが、ヘッドホンで聞くときはいつも呼びかけられて返事ができるくらいの音量を目安にしてください。

リモコンについて

付属のリモコンは本機専用です。また、他機種に付属のリモコンで、本機の操作はできません。

液晶画面およびレンズについて

- 液晶画面は有効画素99.99％以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されませんので安心して使ってください。
- 液晶画面やレンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。
- カメラ撮像素子は非常に高度な技術を駆使して作られており、常時明るく見える点や線、暗く見える点や線が存在する場合があります。また、特に光量が少ない場所での撮影では白い線などのノイズが増えますが、故障ではありませんのであらかじめご了承ください。

お手入れについて

表面や液晶画面が汚れたときは

水気を少し含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面をいためますので使わないでください。

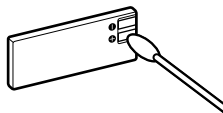
レンズをきれいにする

レンズに指紋やゴミがついて汚れたときは、柔らかい布などを使ってきれいにすることをおすすめします。シンナー、ベンジン、アルコールなどはレンズをいためますので使わないでください。

ヘッドホンおよびリモコンのプラグのお手入れについて

プラグが汚れていると雑音や音飛びの原因になることがあります。常によい音でお聞きいただくために、プラグをときどき柔らかい布でからぶきし、清潔に保ってください。

充電池の端子のお手入れについて

定期的に充電池の端子を綿棒や柔らかい布などできれいにしてください。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態で使うと、故障の原因になります。

結露が起こりやすいのは

スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき、冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき、などです。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってから使ってください。特にレンズの内側についた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や破損にそなえ、必ず予備のデータコピーをおとりください。

本書中の画像について

画像の例として本書に掲載している写真はイメージです。本機を使って撮影したものではありません。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合が悪いときはサービスへ

お客様ご相談センターまたはお買い上げ店、添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ポータブルミニディスクプレーヤーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お客様ご相談センターまたはお買い上げ店、ソニーサービス窓口にご相談ください。

主な仕様

形式
ミニディスクデジタルオーディオシステム

録音方式
磁界変調光学方式

再生読み取り方式
非接触光学読み取り (半導体レーザー使用)

レーザー
GaAIAsMQWダイオード、λ =790nm

録音再生時間
「録音時間について」(☞71ページ)

回転数
約350 rpm ～ 3,600 rpm (CLV)

エラー訂正方式
Hi-MD :
LDC (Long Distance Code)/BIS (Burst Indicator Subcode)
MD :
ACIRC (Advanced Cross Interleave Reed Solomon Code)

サンプリング周波数
44.1kHz

対応オーディオフォーマット
リニアPCM (44.1kHz/16ビット)
ATRAC3plus (Adaptive TRansform Acoustic Coding 3 plus)
ATRAC3
ATRAC
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3/サンプリング周波数44.1kHz/ビットレート32-320kbps (固定/可変ビットレート)

変調方式
Hi-MD :
1-7RLL (Run Length Limited)/PRML (Partial Response Maximum Likelihood)
MD:
EFM (Eight to Fourteen Modulation)

周波数特性 (ヘッドホン出力時)
20 ～ 20,000 Hz ± 3 dB

出力端子
🎧 : ステレオミニジャック (専用リモコンジャック)

実用最大出力 (DC時) *
ヘッドホン : 5 mW + 5 mW (16 Ω)

撮像素子
対角5.6 mm (1/3.2型) カラー CMOS
原色フィルター

総画素数
約133万画素

カメラ有効画素数
約130万画素

レンズ
単焦点レンズ
f=4.7 mm (35 mmカメラ換算では36mm)、F3.2

露出制御
自動

データ方式
画像 : DCF準拠 (Exif Ver.2.2 JPEG準拠)

フラッシュ
推奨撮影距離 : 0.5 ～ 0.7 m

液晶画面
画面サイズ 対角38 mm (1.5型)
総ドット数 114 960 (479 × 240) ドット

電源
本体 :
充電式リチウムイオン電池LIP-4WM、3.7V、370mAh、Li-ion 1個
USBクレードル :
ACパワーアダプター DC 6V, AC 100-240V, 50/60 Hz

動作温度
＋5℃～＋35℃

電池持続時間 *
「充電池の使用可能時間」(☞20ページ)

本体寸法
約83.6 × 81.1 × 21.4 mm
(幅/高さ/奥行き、突起部含まず)

最大外形寸法 *
約84.5 × 82.7 × 25.7 mm
(幅/高さ/奥行き)

質量
約145g（本体のみ）
約155g（充電式電池含む）

* JEITA（電子情報技術産業協会）規格による測定値です。

本機は、ドルビーラボラトリーズの米国及び外国特許に基づく許諾製品です。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

製造年は、本体のふたを開けた内側に表示されています。

録音時間について

ディスクの種類、ディスクモード、転送モードによって、録音時間は異なります。

Hi-MDモードでお使いの場合

	録音時間 *			
コーデック/ビットレート	Hi-MD規格専用1GBディスク	80分ディスク	74分ディスク	60分ディスク
リニアPCM/1.4Mbps	約1時間34分	約28分	約26分	約21分
ATRAC3plus/256kbps	約7時間55分	約2時間20分	約2時間10分	約1時間40分
ATRAC3plus/64kbps	約34時間	約10時間10分	約9時間20分	約7時間40分
ATRAC3plus/48kbps	約45時間	約13時間30分	約12時間30分	約10時間
ATRAC3/132kbps	約16時間30分	約4時間50分	約4時間30分	約3時間40分
ATRAC3/105kbps	約20時間40分	約6時間10分	約5時間40分	約4時間40分
ATRAC3/66kbps	約32時間40分	約9時間50分	約9時間	約7時間20分
MP3**/128kbps	約17時間	約5時間	約4時間30分	約3時間30分

MDモードでお使いの場合

	録音時間 *		
コーデック/ビットレート	80分ディスク	74分ディスク	60分ディスク
ステレオ転送ATRAC/292kbps	約1時間20分	約1時間14分	約1時間
ATRAC3/132、105kbps	約2時間40分	約2時間28分	約2時間
ATRAC3/66kbps	約5時間20分	約4時間56分	約4時間

* 1曲4分の曲を転送した場合
** MPEG-1 Audio Layer-3/サンプリング周波数44.1kHz/固定ビットレートのファイル形式

用語解説

システムファイル
音声以外の情報を記録するミニディスク上の領域です。
どの曲が何曲目で、ディスクのどこにあるかなどを記録しています。ミニディスクが本だとすると、索引や目次にあたります。
録音やトラックマークの記録・削除、曲の移動などの際、ミニディスクレコーダーはシステムファイルの書き換え作業を行います（この間は画面に「システムファイルの書込み中です」が表示されます）。この間はディスクへの記録をしていますので、衝撃を与えたり、電源を抜いたりしないでください。記録が正しく行われないばかりか、ディスクの内容が失われることがあります。

フォーマット
「初期化」とも言います。記録メディアにデータを書き込めるようにすることです。
フォーマットすると、記録メディアに保存されているデータはすべて消えます。

リニアPCM
デジタル圧縮しない音声記録方式です。この方式で録音すると、CDと同じ音質を楽しむことができます。

AE
「Auto Exposure」の略で、被写体の明るさをカメラが判断して、自動で露出を決める機能のことです。

AF
「Auto Focus」の略で、カメラが自動でピントを合わせる機能のことです。

ATRAC/ATRAC3用DSP TYPE-S
ソニーのハイスペックMDデッキに搭載されているATRAC用DSP TYPE-Sを採用しています。MDLPモードや132/105/66 kbpsで転送された曲の再生時に高音質で楽しめます。また、このDSPにはATRAC用DSP TYPE-Rの演算能力も継承されていますので、TYPE-SまたはTYPE-R対応機器でSPステレオ録音された曲の再生にも優れています。

ATRAC3plus
ATRAC3plusとは、ATRAC3を更に発展させたオーディオ圧縮技術です。
これまでのATRAC3（LP2/LP4モード）の圧縮率が、CDの1/10だったのに対し、ATRAC3plus（Hi-SP/Hi-LPモード）はCDをベースに比較すると、1/20という高い圧縮率かつ高音質を実現しています。

CMOS
「Complementary Metal Oxide Semiconductor」の略で、光を電気信号に変換する半導体の一種のことです。

DCF
「Design rule for Camera File system」の略で、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された統一規格のことです。

Exif
（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された、撮影情報などの付帯情報を追加することができる画像用のファイルフォーマットです。

Hi-MD
Hi-MDとは、新しいミニディスクのフォーマットです。従来のミニディスクから、ディスクの記録方式を変え、更に長時間の録音が可能になりました。また、パソコンの外部機器として、音楽データ以外のデータ（例えば、テキストデータや画像データ）もミニディスクに記憶することができます。
Hi-MDの特徴については、別紙の「Hi-MDウォークマンでこんなことができます」をご覧ください。

Hi-MDモードとMDモード
本機は「Hi-MD」と「MD」の2つのモードを持ち、挿入されたディスクによって、モードが切り換わります。

ディスク		モード
Hi-MD規格専用1GBディスク		Hi-MD
60/74/80分ディスク	ブランクディスク	メニューの「ディスクモード」の設定に従います。
	Hi-MDモードで録音された音楽が入っている	Hi-MD
	MDモードで録音された音楽が入っている	MD

JPEG
「ジェイペグ」と読みます。インターネットで扱う代表的なカラーの画像を圧縮する形式のことです。本機では、通常の画像撮影時、JPEG形式で画像を保存します。

Net MD
パソコン内に入っている音楽データを、USBケーブルを介してミニディスクに録音できる規格です。
従来のMDが録音できる音源の種類は、マイクやアナログ入力からのアナログ音源または、音楽CDなどからのPCM音源のみだったため、パソコンからの録音は不可能でした。しかし、「OpenMG」[1]と「MagicGate」[2]という著作権保護技術に基づいた音楽管理ソフト（SonicStageなど）を使って「ATRAC」[3]、「ATRAC3」[3]という音楽データの形式に変換することにより、MDへの録音が可能となりました。

1）パソコンに取り込まれたCDなどの音楽データを管理するための著作権技術
2）パソコンとNet MD機器の間で、お互いが著作権保護に対応しているかの認証を行う技術
3）従来のMDの録音時に変換される形式

次のページにつづく

USB

「Universal Serial Bus」の略で、キーボードやマウスなどのパソコンの周辺機器を接続するための規格のことです。

VGA

「Video Graphics Array」の略で、640×480の画像サイズのことです。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

アルファベット